

7 土地改良部門の参考歩掛（J条件詳細版）

①	土工	
	1	側溝掘削 WN910010 125
	2	基礎砕石工 WN910050、WN910060 126
	3	たて込み簡易土留め工 WN910110 128
	4	植生土のう WN910570 130
②	コンクリート	
	1	用水路コンクリート取り壊し工 WN910120 131
	2	止水板設置（貼付タイプ） WN910140 132
	3	コンクリート打継目処理 WN910580 133
	4	コンクリート殻集積・積込 WN224260 133
③	暗渠	
	1	暗渠掘削（バックホウ） WN910160 134
	2	暗渠掘削（トレンチャ） WN910170 136
	3	暗渠排水資材小運搬 WN910180、WN910190、WN910200 138
	4	暗渠排水管布設 WN910220 141
	5	排水口設置 WN910230 142
	6	疎水材機械投入 143
	6-1	チップ、砂利・砂、火山レキ・灰、ホタテ貝殻 WN910240 143
	6-2	モミガラ WN910250 146
	6-3	モミガラ運搬、袋詰 【参考】 【オプション入力】 147
	7	暗渠排水溝埋戻し WN910260、WN910270、WN910280、WN910290 148
	8	高速自動埋設暗渠工 WN910320 151
	9	附帯明渠掘削（床下げ） WN910310 155
	10	附帯明渠掘削 WN910330 156
④	ほ場整備・客土工	
	1	ほ場整備整地工（水田） WN910700～WN910770 157
	2	放下整理工 WN910800 164
⑤	農用地造成	
	1	心土破碎 WN910360 165
	2	農地造成工（スクレープドーザ掘削） WN011001 167
	3	農地造成工（被けん引式スクレーパ掘削） WN011002 169
	4	ケンブリッジローラ鎮圧 WN011017 172
	5	ブラッシュブレーカ耕起 WN011008 174
	6	ディスクハロー砕土 WN011012 175
	7	土壌改良資材散布（ライムソワー） WN011010 177
	8	プラウイングハロー耕起 WN011009 180
⑥	管水路	
	1	高密度ポリエチレン管布設 WN910380、WN910390、WN910400、WN910410 183
	2	用水管路基礎法面整形 WN910420 186
	3	管水路基礎工（管水路撤出し・敷均し・締固め工） WN900080、WN900090 187
	4	管水路埋戻し WN900100 190

⑦附帯作工

1	長尺コンクリートフリューム据付 WN910440	193
2	木製防護柵設置 WN910450	194
3	コンクリート製品類据付 WN910540	195
4	大型コンクリート製品類据付 WN910550	197
5	量水標設置 WN910520	198
6	はしご設置 WN910530	199
7	鉄筋コンクリート管設置(φ250~1000mm) WN161930、WN162030	202
8	鉄筋コンクリート管設置(φ1100~1350mm) WN162040	206
9	護岸基礎ブロック(1) WN322120	208
10	護岸基礎ブロック(2) WN322130	212

⑧仮設

1	仮排水路用シート WN910480	214
2	盛土被覆シート WN910490	214
3	立木切倒し、枝払い切揃え・立木集積 立木積込み、立木・伐開物・伐根物運搬 WA169901、WA169902、WA169903	216
4	仮設砂利敷道路(新設道路) WP018152	219
5	仮設資材(コンクリート管) WN910810	220

「土地改良部門の参考歩掛」の取扱いについて

本資料は、調査事例が少ないなどの理由により、今後引き続き事例収集に努める歩掛として整理したものであり、当該工事の内容及び条件等を十分に確認して適用すべき歩掛である。

① 土 工

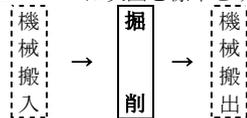
1 側溝掘削 (WN910010)

(1) 適用範囲

本歩掛は、専用バケットによる側溝の掘削作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工機種

機種は次表を標準とする。

機械名	規 格	摘 要
バックホウ	(専用バケット装着) 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	

(4) 施工歩掛

側溝掘削歩掛は、次表を標準とする。

表(4). 1 側溝掘削歩掛 (N)

(100m³当り)

名 称	規 格	単位	土砂類	摘 要
バックホウ	(専用バケット装着) 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	日	1. 1 8	
諸雑費率		%	4	

備考 1. 残土処理は含めない。

2. 諸雑費は、専用バケットの器具費であり、機械経費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(5) 単価表

側溝掘削 1m当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
バックホウ運転時間		日	側溝1m当り掘削数量(m ³)×N/100	表(4). 1
諸雑費率		式	1	
計				

備考 N: 100m³当り歩掛

(6) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	摘 要
バックホウ	(専用バケット装着) 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機-2 8	運転労務→1.00 燃料消費量→34 賃料数量→1.10

(7) 施工単価入力基準表

側溝掘削

コード	WN910010	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		J 2
	施工断面 (敷幅×切深×法)		側溝1m当り掘削数量
	① 30cm×30cm×1.0割 ② 30cm×40cm×1.0割 ③ 30cm×50cm×1.0割 ④ 50cm×50cm×1.0割 ⑤ 各種		実数入力 (m ³)

(注) 1. J1条件で掘削数量を入力する。

2. 単価には諸雑費率4%を含んでいる。

■単価登録: なし ■諸雑費 (率+まるめ)

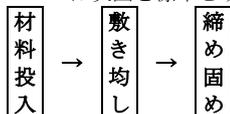
2 基礎砕石工 (WN910050、WN910060)

(1) 適用範囲

本歩掛は、比較的大型の構造物で現場条件から、作業能力が高い作業機械での施工が可能な場合に適用する。
また、材料割増については20%とする。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



(3) 使用機械

材料の投入・敷均し及び締め固め機械は次表を標準とする。

作業	機械名	規格	摘要
材料投入	バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	
敷き均し	ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値)3t級	
		排出ガス対策型(第1次基準値)15t級	
締め固め	振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 搭乗式コンバインド型 3～4t級	

(4) 施工歩掛

施工歩掛は次表を標準とする。

表(4) . 1 基礎材投入 (N1)

(100m³当り)

名称	単位	歩掛	摘要
バックホウ運転(投入)	日	0.32	山積0.8m ³ 級・ルーズ積込準用 100/310=0.32(土砂類)

表(4) . 2 敷均し (N2)

(100m³当り)

適用区分	名称	単位	歩掛	摘要
1m ≤ W < 2.5m	普通作業員	人	8.50	敷均し
2.5m ≤ W < 4m	3tブルドーザ 排出ガス対策型 (第1次基準値)	日	0.77	敷き均し主機械 100/130=0.77
	普通作業員	人	0.30	機械補助労務
4m ≤ W	15tブルドーザ 排出ガス対策型 (第1次基準値)	日	0.14	敷き均し主機械 100/690=0.14
	普通作業員	人	0.20	機械補助労務

備考 1. 本歩掛の適用は、機械の搬入路が確保されていることが適用の条件であり、搬入路の確保ができない場合は、1ランク下の施工機種とするか、または、搬入・搬出に要する費用を別途考慮し、経済比較によること。
2. 本歩掛は、敷均し厚さ30cmまでに適用する。
3. 現場条件により、上表によりがたい場合は別途考慮すること。
4. 本歩掛を使用する場合の機械運転経費は下記のとおりとする。

表(4) . 3 締め固め (N3)

(100m³当り)

適用区分	名称	単位	歩掛	摘要
1m ≤ W < 2.5m	振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)	日	0.83	搭乗式3～4t級 100m ³ ÷ 120m ³ /日 =0.83日/100m ³
2.5m ≤ W	振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)	日	0.83	搭乗式3～4t級 100m ³ ÷ 120m ³ /日 =0.83日/100m ³

備考 1. 現場条件により、上表によりがたい場合は別途考慮すること。
2. 本歩掛を使用する場合の機械運転経費は下記のとおりとする。

(5) 単価表

(5) . 1 基礎砕石工(1.0m \leq W<2.5m) 100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式クローラ型0.80m ³ (平積0.6m ³)	日	N1	表(4).1
普通作業員		人	N2	表(4).2
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型3~4t級	日	N3	表(4).3
計				

備考 N1, N2, N3 : 100m³当り歩掛(5) . 2 基礎砕石工(2.5m \leq W<4.0m)、(4.0m \leq w) 100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式クローラ型0.80m ³ (平積0.6m ³)	日	N1	表(4).1
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値)〇t級	〃	N2	表(4).2
普通作業員		人	〃	〃
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型3~4t級	日	N3	表(4).3
計				

備考 N1, N2, N3 : 100m³当り歩掛

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ運転 (投入)	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→90 機械損料数量→1.46
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 3t級	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→24 機械損料数量→1.56
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t級	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→84 機械損料数量→1.55
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型3~4t級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→20 賃料数量→1.60

(7) 施工単価入力基準表

基礎砕石工(1.0m \leq W<2.5m)

コード	WN910050	施工単位	m ³
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. 別途材料を計上する場合の材料割増は20%を計上する。

■単価登録：なし ■諸雑費(まるめ)

基礎砕石工(2.5m \leq W<4.0m)、(4.0m \leq w)

コード	WN910060	施工単位	m ³
施工区分	入力条件		
各種	J1 敷均し		
	① 2.5m \leq W<4.0m ② 4.0m \leq W		

(注)1. 別途材料を計上する場合の材料割増は20%を計上する。

■単価登録：なし ■諸雑費(まるめ)

3 たて込み簡易土留め工 (参考)

(1) 適用範囲

本歩掛は、たて込み簡易土留めのたて込み、引き抜きに適用する。

(2) 施工歩掛

たて込み、引き抜きに係るクレーン付バックホウ歩掛は次表を標準とする。

表(2)-1 たて込み歩掛

(1m当たり)

機種	単位	歩掛算出方法
バックホウ (クレーン機能付)	時間	たて込み時間=掘削深(m)×土留材たて込み時間(分/m ²)/60

※ 土留材たて込み時間=4.0分/m²

表(2)-2 引き抜き歩掛

(1m当たり)

機種	単位	歩掛算出方法
バックホウ (クレーン機能付)	時間	引き抜き時間=掘削深(m)×土留材引き抜き時間(分/m ²)/60

※ 土留材引き抜き時間=5.2分/m²

表(2)-3 掘削深さ別、たて込み・引き抜き時間

(hr/m)

掘削深さ (m)	掘削幅					
	0.90m以上1.10m未満		1.10m以上1.35m未満		1.35m以上4.70m以下	
	排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.20m ³)1.7t		排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)2.9t		排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.80m ³ (平積0.60m ³)2.9t	
	たて込み時間	引き抜き時間	たて込み時間	引き抜き時間	たて込み時間	引き抜き時間
1.50m	0.100	0.130	0.100	0.130	0.100	0.130
1.60m	0.107	0.139	0.107	0.139	0.107	0.139
1.70m	0.113	0.147	0.113	0.147	0.113	0.147
1.80m	0.120	0.156	0.120	0.156	0.120	0.156
1.90m	0.127	0.165	0.127	0.165	0.127	0.165
2.00m	0.133	0.173	0.133	0.173	0.133	0.173
2.10m	0.140	0.182	0.140	0.182	0.140	0.182
2.20m	0.147	0.191	0.147	0.191	0.147	0.191
2.30m	0.153	0.199	0.153	0.199	0.153	0.199
2.40m	0.160	0.208	0.160	0.208	0.160	0.208
2.50m	0.167	0.217	0.167	0.217	0.167	0.217
2.60m	0.173	0.225	0.173	0.225	0.173	0.225
2.70m	0.180	0.234	0.180	0.234	0.180	0.234
2.80m	0.187	0.243	0.187	0.243	0.187	0.243
2.90m	0.193	0.251	0.193	0.251	0.193	0.251
3.00m	0.200	0.260	0.200	0.260	0.200	0.260
3.10m	—	—	0.207	0.269	0.207	0.269
3.20m	—	—	0.213	0.277	0.213	0.277
3.30m	—	—	0.220	0.286	0.220	0.286
3.40m	—	—	0.227	0.295	0.227	0.295
3.50m	—	—	0.233	0.303	0.233	0.303
3.60m	—	—	0.240	0.312	0.240	0.312
3.70m	—	—	0.247	0.321	0.247	0.321
3.80m	—	—	0.253	0.329	0.253	0.329
3.90m	—	—	0.260	0.338	0.260	0.338
4.00m	—	—	0.267	0.347	0.267	0.347
4.10m	—	—	—	—	0.273	0.355
4.20m	—	—	—	—	0.280	0.364
4.30m	—	—	—	—	0.287	0.373
4.40m	—	—	—	—	0.293	0.381
4.50m	—	—	—	—	0.300	0.390
4.60m	—	—	—	—	0.307	0.399
4.70m	—	—	—	—	0.313	0.407
4.80m	—	—	—	—	0.320	0.416
4.90m	—	—	—	—	0.327	0.425
5.00m	—	—	—	—	0.333	0.433
5.10m	—	—	—	—	0.340	0.442
5.20m	—	—	—	—	0.347	0.451
5.30m	—	—	—	—	0.353	0.459
5.40m	—	—	—	—	0.360	0.468
5.50m	—	—	—	—	0.367	0.477
5.60m	—	—	—	—	0.373	0.485
5.70m	—	—	—	—	0.380	0.494
5.80m	—	—	—	—	0.387	0.503
5.90m	—	—	—	—	0.393	0.511
6.00m	—	—	—	—	0.400	0.520

(3) 施工単価入力基準表
たて込み簡易土留め

コード	WN910110	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		J 2
	掘削幅区分		掘削幅
	① 0.90m以上1.10m未満 ② 1.10m以上1.35m未満 ③ 1.35m以上4.70m以下		実数入力(m)
		J 3	掘削幅
			実数入力(m)

J 4	J 5	J 6
掘削幅	掘削深さ	施工内容
実数入力(m)	① 1.50m ② 1.60m ③ 1.70m ④ 1.80m ⑤ 1.90m ⑥ 2.00m ⑦ 2.10m ⑧ 2.20m ⑨ 2.30m ⑩ 2.40m ⑪ 2.50m ⑫ 2.60m ⑬ 2.70m ⑭ 2.80m ⑮ 2.90m ⑯ 3.00m ⑰ 3.10m ⑱ 3.20m ⑲ 3.30m ⑳ 3.40m ㉑ 3.50m ㉒ 3.60m ㉓ 3.70m ㉔ 3.80m ㉕ 3.90m ㉖ 4.00m ㉗ 4.10m ㉘ 4.20m ㉙ 4.30m ㉚ 4.40m ㉛ 4.50m ㉜ 4.60m ㉝ 4.70m ㉞ 4.80m ㉟ 4.90m ㊱ 5.00m ㊲ 5.10m ㊳ 5.20m ㊴ 5.30m ㊵ 5.40m ㊶ 5.50m ㊷ 5.60m ㊸ 5.70m ㊹ 5.80m ㊺ 5.90m ㊻ 6.00m	① 掘削・たて込み+引抜 ② 掘削・たて込み ③ 引抜

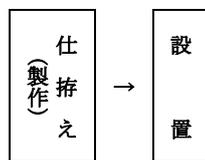
- (注)1. J1条件で①を選択した場合、J2条件で掘削幅を入力する。
 2. J1条件で②を選択した場合、J3条件で掘削幅を入力する。
 3. J1条件で③を選択した場合、J4条件で掘削幅を入力する。
 4. J1条件で①を選択した場合、J5条件は①～⑯で選択可能。
 5. J1条件で②を選択した場合、J5条件は①～⑳で選択可能。
 6. J1条件で③を選択した場合、J5条件は①～㉒で選択可能。
 7. J6条件で①～③のいずれかを選択する。

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

4 植生土のう (WN910570)

(1) 適用範囲
本歩掛は、現地採取した詰土による土のう製作及び設置に適用する。

(2) 施工概要
施工フローは次図を標準とする。



(3) 施工歩掛

表(3). 1 施工歩掛 (10m³当り)

施工区分	普通作業員 (人)	摘 要
仕拵え (製作)	5.8	
設 置	4.1	

(4) 植生土のう施工歩掛

表(4). 1 (N5) (100m²当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	29.7	
植生土のう	60×40	袋	2000	

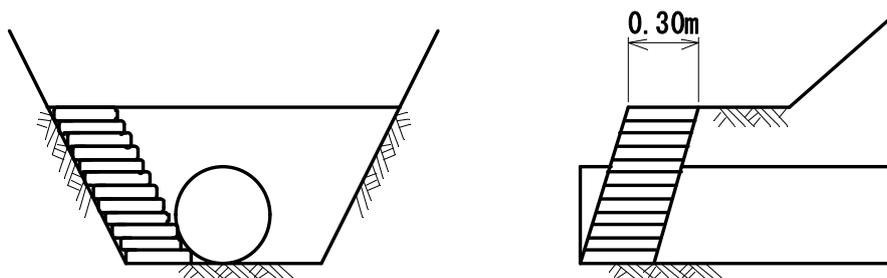
(5) 単価表

表(5). 1 単-5 植生土のう 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	N5	表4. 1
植生土のう	60×40	袋	〃	〃
計				

備考 N5: 100m²当り歩掛

(6) 参考図



(7) 施工単価入力基準表

植生土のう

コード	WN910570	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	な し		

■単価登録: なし ■諸雑費 (まるめ)

② コンクリート

1 用水路コンクリート取り壊し工(WN910120)

(1) 適用範囲

本歩掛は、農業用排水路（フルーム水路等及びそれに準じた2次製品水路）のとりこわしに適用する。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種の選定

機種の選定は、次表を標準とする。

機 械 名	規 格	摘 要
大型ブレーカー	油圧式 600～800kg級	バックホウ排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)

(4) 施工歩掛

表(4) 用水路コンクリート取り壊し(N)

(10m³当り)

名 称	規 格	単 位	鉄筋構造物	無筋構造物	摘 要
世 話 役		人	0.34	0.25	
溶 接 工		"	0.39	—	
普 通 作 業 員		"	0.81	0.41	
大型ブレーカー運転	油圧式600～800kg級	h	3.4	1.7	
諸 雑 費		%	4	1	

備考 1. 諸雑費は、チゼルの損耗費等であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし、鉄筋構造物には鉄筋切断における切断機械損料、材料費等を含む。
 2. 上表の歩掛はコンクリート殻を径30cm程度の大きさに破碎するものである。
 3. 上表の鉄筋構造物には、鉄筋切断歩掛を含む。
 4. 殻処理（集積・積込、運搬及び処理費）は別途計上する。

(5) 単価表

用水路コンクリート取り壊し 10m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	N	表(4)
溶 接 工		"	N	"
普 通 作 業 員		"	N	"
大型ブレーカー運転	油圧式600～800kg級	h	N	"
諸 雑 費		式	1	"
計				

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大型ブレーカ	ブレーカー油圧式 600～800kg級	機-3	機械損料1→バックホウ 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m3(平積0.6m3)
			機械損料2→大型ブレーカ 油圧式600～800kg級 単位→日、数量→1/T(日) T:バックホウ運転時間

(7) 施工単価入力基準表

用水路コンクリート取り壊し工

コード	WN910120	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 建造物		
	① 鉄筋構造物 ② 無筋構造物		

(注)1. J1①単価には諸雑費率4%、J1②単価には諸雑費率1%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費（率+まるめ）

2 止水板設置（貼付タイプ）（WN910140）

(1) 適用範囲

本歩掛は、止水板をコンクリート接続部（硬化及び既設コンクリート側）に貼り付ける作業に適用する。

(2) 施工歩掛

表(2). 1 止水板設置（貼付タイプ）(N) (10m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	0. 1 3	
止 水 板		m	1 0. 1	

備考 1. 上表の歩掛は、硬化及び既設コンクリート面の清掃、接着剤の塗布、止水板貼付の一連作業を含む。

2. 止水板の数量には材料損失量1%を含んでいる。

(3) 単価表

表(3). 1 止水板設置（貼付タイプ） 10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	N 1	表(2). 1
止 水 板		m	N 2	"
計				

備考 N 1 : 10m当り歩掛

N 2 : 10m当り数量

(4) 施工単価入力基準表

止水板設置（貼付タイプ）

コード	WN910140	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 材料の有無		J 2 止水板規格
	① 有り ② 無し		① 150×6 ② 各種

(注)1. 止水板の数量には材料損失量1%を含んでいる。

■単価登録：止水板（Y1671000） ■諸雑費（まるめ）

3 コンクリート打継目処理 (WN910580)

(1) 適用範囲及び施工歩掛

本歩掛は、コンクリート用水路等の打継目において、遅延材処理を行う場合に適用し、標準使用数量は次表を標準とする。

表(1) . 1コンクリート打継目(遅延材処理) 10m2当り使用材料

名 称	単 位	数 量	摘 要
遅 延 材	kg	3.0	

(2) 施工単価入力基準表

コンクリート打継目処理

コード	WN910580	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	遅延材規格		
	① コンクリート打継目処理剤		
	② 各種		

■単価登録：材料費：遅延材(Y0800007) ■諸雑費(まるめ)

4 コンクリート殻集積・積込 (WN224260)

(1) 適用範囲

本歩掛は、コンクリート構造物又は、舗装版をとりこわした後のコンクリート殻等処理及び舗装版を直接掘削・積込する場合のコンクリート殻等処理に適用する。

(2) 機種の設定

とりこわしたコンクリート殻等の処理用機械は、次表を標準とする。

表(2)-1 機種の設定

処 理 工 法	使 用 機 械
(1) とりこわし現場周辺で棄却できる場合	バックホウ排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m3(平積0.6m3)
(2) 運搬・搬出による棄却の場合	バックホウ排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m3(平積0.6m3) ダンプトラック(10t積級)

備考 1.コンクリート殻の集積、積込作業の作業能力は、農林水産省土地改良工事積算基準(土木工事)「作業日当り標準作業量」によるものとし、日当り作業能力は260m3/日を標準とする。なお、対象量はとりこわし構造物の破砕前の体積とする。

2.現場条件等により、上表により難い場合は作業に適した機械を使用する。

(3) 機械補助歩掛

コンクリート殻の集積、積込を行う場合の機械付歩掛は、次表を標準とする。

表(3)-1 機械補助労務 (10m3当り)

職 種	単 位	歩 掛
普通作業員	人	0.4

(4) 単価表

表(4)-1 コンクリート殻集積・積込 10m3当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	N	表(3)-1
バックホウ運転	クローラ山積0.8m3	日	1日/260m3×10	
計				

備考 N:10m3当り歩掛

機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(掘削積込)	バックホウ排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m3(平積0.6m3)	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →90 機械損料数量→1.46

(5) 施工単価入力基準表

コンクリート殻集積・積込

コード	WN224260	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		

■単価登録：なし ■諸雑費(まるめ)

③ 暗 渠

1 暗渠掘削（バックホウ）（WN910160）

（1）適用範囲

以下の範囲のバックホウによる暗渠排水溝掘削作業に適用する。

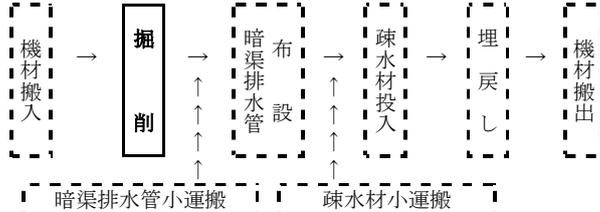
標準型バケットの場合：平均掘削深0.6～1.5m

スリム型バケットの場合：平均掘削深0.6～1.3m

掘削深1.5mを超える場合は適用できない。

（2）施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注1) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

（3）機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表（3）-1 機種を選定

バケット区分		機械名	規 格	摘 要
標 準 型	内法勾配1：0.136	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） （暗渠排水溝掘削用バケット付） クローラ型山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	
ス リ ム 型	内法勾配1：0.10以下			

備考 バックホウ（暗渠排水溝掘削用バケット付）損料は、バックホウ（クローラ型）損料と同額とする。

（4）施工歩掛

暗渠排水溝掘削歩掛は、次表を標準とする。

表（4）-1 暗渠排水溝掘削歩掛(N) (100m当り)

バケット区分				平均掘削深 (m)			
				標準型		スリム型	
名 称	規 格	単 位	作業条件	0.6～1.1	1.2～1.5	0.6～1.1	1.2～1.3
バックホウ 運 転	排出ガス対策型（第2次基準値） （暗渠排水溝掘削用バケット付） クローラ型 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	h	標 準	1.28	1.54	1.67	2.00
			障害あり	1.66	1.99	2.17	2.60
普通作業員		人	標 準	0.18	0.22	0.19	0.23
			障害あり	0.23	0.28	0.25	0.30

備考 1. 障害ありとは、過湿等により地盤状態が悪い又は、転石混じり・固い地盤等により連続した作業が期待できない場合である。スリム型において、岩塊・玉石・埋木等で掘削作業ができない場合又は、断面確保ができない場合は機種変更を考慮すること。

2. 普通作業員は、掘削後の不陸均し、崩落土砂の排除等のための労務である。

3. 標準速度 従来型100m÷1.28=78.1m/h、スリム型100m÷1.67=59.9m/h

（5）単価表

表（5）-1 暗渠排水溝掘削 100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バ ッ ク ホ ウ 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) (暗渠排水溝掘削用バケット付)クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	h	N	表(4)-1
普 通 作 業 員		人	N	〃
計				

備考 N:100m当り歩掛

(6) 施工単価入力基準表
暗渠掘削 (バックホウ)

コード	WN910160	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 バケット区分	J 2 平均掘削深 (m)	J 3 平均掘削深 (m)
	① 標準型 ② スリム型	① 0.6~1.1 ② 1.2~1.5	① 0.6~1.1 ② 1.2~1.3
J 4 バックホウ運転		J 5 普通作業員	
① 標準 ② 障害あり		① 標準 ② 障害あり	

- (注) 1. J1条件で①を選択した場合、J2条件を選択する。
2. J1条件で②を選択した場合、J3条件を選択する。
3. J2、J3条件選択後、それぞれJ4条件、J5条件を選択する。

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

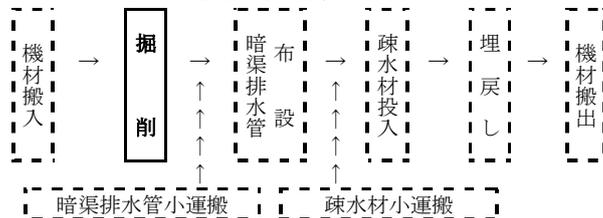
2 暗渠掘削（トレンチャ）（WN910170）

(1) 適用範囲

トレンチャによる平均掘削深0.6～1.2mの暗渠排水溝掘削作業に適用する。
掘削深1.5mを超える場合は適用できない。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注1) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表(3)-1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
トレンチャ	自走式・普通型 クローラ46kW 最大掘削深1.5m	
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） （暗渠排水溝掘削用バケット付） クローラ型 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	補助作業用

備考 1. バックホウは、接合部、末端部等トレンチャで作業困難な部分の補助作業用機械である。

2. バックホウ（暗渠排水溝掘削用バケット付）損料は、バックホウ（クローラ型）損料と同額とする。

(4) 施工歩掛

暗渠排水溝掘削歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-1 暗渠排水溝掘削歩掛(N)

(100m当り)

名 称	規 格	単 位	作 業 条 件	数 量	摘 要
トレンチャ運 転	自走式・普通型 クローラ46kW 最大掘削深1.5m	h	標準	0.76	
			障害あり	0.99	
バックホウ運 転	排出ガス対策型（第2次基準値） （暗渠排水溝掘削用バケット付） クローラ型 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	"	標準	0.17	
			障害あり	0.22	

備考 1. 障害ありとは、過湿等により地盤状態が悪い又は、転石混じり・固い地盤等により連続した作業が期待できない場合である。岩塊・玉石・埋木等で掘削作業ができない場合又は、断面確保ができない場合は機種変更を考慮すること。

2. 標準速度100m÷0.76=131.6m/h。

(5) 単価表

表(5)-1 暗渠排水溝掘削 100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
トレンチャ運転	自走式・普通型 クローラ46kW 最大掘削深1.5m	h	N	表(4)-1
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値） （暗渠排水溝掘削用バケット付） クローラ型 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	"	N	"
計				

備考 N:100m当り歩掛

(6) 施工単価入力基準表
暗渠掘削 (トレンチャ)

コード	WN910170	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 トレンチャ運転 (作業条件)		J 2 バックホウ運転 (作業条件)
	① 標準 ② 障害あり		① 標準 ② 障害あり

■単価登録：なし ■諸雑費 (まるめ)

3 暗渠排水資材小運搬 (WN910180、WN910190、WN910200)

(1) 適用範囲

本歩掛は、暗渠排水資材（管・被覆物等）を、仮置場所からほ場内へ不整地運搬車で小運搬し、積卸しする作業に適用する。

(2) 使用機械

小運搬に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表(2) . 1 機種の選定

資材名	機械名	規格
暗渠排水管(定尺管) 素焼土管・陶管 もみ殻・粗朶類	不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量2.0 t
暗渠排水管(長尺管)	不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量3.3~3.5 t

備考 1. 暗渠排水管(定尺管)は、硬質塩化ビニール管及び硬質ポリエチレン製管、合成樹脂網管のL=4.0~5.0m/本の場合である。
2. 暗渠排水管(長尺管)は、硬質ポリエチレン製管及び合成樹脂網管のロール管の場合である。

(3) 施工歩掛

1) 日当り施工量

機械小運搬(不整地運搬車)の日当り施工量は、次表を標準とする。

表(3) . 1 日当り施工量 (Q)

(1日当り)

資材名	規格	単位	施工量	摘要
暗渠排水管(定尺管)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載重量2.0 t	m	3,160	
暗渠排水管(長尺管)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載重量3.3~3.5 t	m	1,890	
素焼土管・陶管	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載重量2.0 t	t	6.0	
もみ殻	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載重量2.0 t	m ³	78.8	
粗朶類	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載重量2.0 t	m ³	120	

備考 運搬距離は150m程度を標準とする。

2) 積卸し歩掛

積卸しの施工歩掛は、次表を標準とする。

表(3) . 2 積卸し歩掛 (N)

資材名	単位	普通作業員	摘要
暗渠排水管(定尺管)	人/100m	0.04	
暗渠排水管(長尺管)	人/100m	0.03	
素焼土管・陶管	人/10 t	0.54	
もみ殻	人/10m ³	0.14	
粗朶類	人/10m ³	0.09	

(4) 単価表

表(4) . 1 暗渠排水資材小運搬(暗渠排水管) 100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車	排出ガス対策型(第〇次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量〇〇t	日	100 / Q	表(3) . 1
普通作業員		人	N	表(3) . 2
計				

備考 Q : 機械小運搬日当り施工量 (m/日)

N : 100m当り歩掛

表(4) . 2 暗渠排水資材小運搬(素焼土管・陶管) 10t当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量2.0t	日	10 / Q	表(3) . 1
普通作業員		人	N	表(3) . 2
計				

備考 Q : 機械小運搬日当り施工量 (t/日)

N : 10t当り歩掛

表(4) . 3 暗渠排水資材小運搬(もみ殻・粗朶類) 10m3当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量2.0t	日	10 / Q	表(3) . 1
普通作業員		人	N	表(3) . 2
計				

備考 Q : 機械小運搬日当り施工量 (m3/日)

N : 10m3当り歩掛

(5) 機械運転単価表

機械名	規 格	区 分	単 位	数 量	摘 要
不整地 運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 クレーン装置無 積載質量2.0t	運転手(特殊)	人	1.00	
		軽 油	ℓ	16	
		賃 料	供用日	1.55	
	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 クレーン装置無 積載質量3.3~3.5t	運転手(特殊)	人	1.00	
		軽 油	ℓ	23	
		機械損料	供用日	1.55	

(6) 施工単価入力基準表

暗渠排水資材小運搬(暗渠排水管)

コード	WN910180	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	資 材		
	① 暗渠排水管(定尺管) ② 暗渠排水管(長尺管)		

■単価登録 : なし ■諸雑費(まるめ)

暗渠排水資材小運搬(素焼土管・陶管)

コード	WN910190	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	な し		

■単価登録 : なし ■諸雑費(まるめ)

暗渠排水資材小運搬（もみ殻・粗朶類）

コード	WN910200	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	資材		
	① もみ殻		
	② 粗朶類		

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

4 暗渠排水管布設(WN910220)

(1) 適用範囲

本歩掛は、暗渠排水溝への暗渠排水管（素焼土管・合成樹脂管）の布設に適用する。
なお配管材料費については、別途計上すること。

(2) 施工歩掛

1) 素焼土管及び合成樹脂管（定尺管）布設歩掛

バックホウ、トレンチャにより掘削された暗渠排水溝に、素焼土管及び合成樹脂管（定尺管）を布設する場合の歩掛は次表による。

表（2）. 1 素焼土管及び合成樹脂管（定尺管）布設歩掛（N） (100m当り)

管種	規格	職種	単位	数量	摘要
素焼土管	φ60～150mm	世話役	人	0.14	
		普通作業員	人	0.65	
合成樹脂管	φ60～150mm ℓ=4m、5m	世話役	人	0.19	
		普通作業員	人	0.45	

備考 1. 素焼土管の使用量は100m当り330本とする。
2. 被覆物を施工する場合は別途加算計上する。

2) 合成樹脂管（長尺管）布設歩掛

自動埋設型トレンチャにより、掘削と同時に合成樹脂管（長尺管）を布設する場合の歩掛は次表による。

表（2）. 2 合成樹脂管（長尺管）布設歩掛（N） (100m当り)

管種	規格	職種	単位	数量	摘要
合成樹脂管	φ60～90mm ℓ=50～100m	世話役	人	0.06	
		普通作業員	人	0.35	

備考 本歩掛には被覆物の施工手間は含まない。

(3) 単価表

表（3）. 1 暗渠排水管布設 100m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	N	表（2）.1、（2）.2
普通作業員		人	N	表（2）.1、（2）.2
計				

備考 N：100m当り歩掛

(4) 施工単価入力基準表

暗渠排水管布設

コード	WN910220	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J1		
	資材		
	① 素焼土管 ② 合成樹脂管（定尺管） ③ 合成樹脂管（長尺管）		

(注)1. 配管材料費は別途計上する。

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

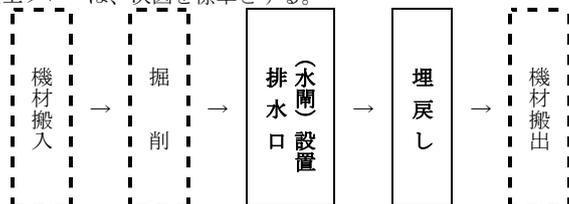
5 排水口設置 (WN910230)

(1) 適用範囲

本歩掛は、水田・汎用田の水閘（縦型、ネジ式等）を含む無孔管部及び畑・草地の無孔管部を対象とし、十分な締固めが必要な埋戻しをする暗渠排水の排水口設置作業に適用する。なお、掘削深1.5mを超える場合は適用できない。

(2) 適用範囲

施工フローは、次図を標準とする。



備考 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2. 掘削は、バックホウ掘削によることを標準とする。

(3) 施工歩掛

排水口設置は、次表を標準とする。

表(3). 1 排水口設置歩掛 (N) (10m当り)

名称	単位	数量		摘要
		縦型水閘	縦型水閘以外	
世話役	人	0.08	0.07	
普通作業員	人	0.80	0.76	

備考 1. 縦型水閘以外とは、ネジ式水閘または無孔管のみの場合である。
2. 現場内小運搬は含まない。

(4) 単価表

表(4). 1 排水口設置10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	N	表(3). 1
普通作業員		人	N	表(3). 1
計				

備考 N:10m当り歩掛

(5) 施工単価入力基準表

排水口設置

コード	WN910230	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1 作業区分		J 2 資材
	① 据付 ② 撤去 ③ 据付・撤去	① 縦型水こう ② 縦型水こう以外	

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

6 疎水材機械投入 (WN910240)

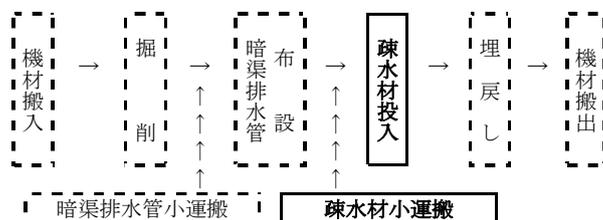
6-1 疎水材機械投入 (チップ、砂利・砂、火山レキ・灰、ホタテ貝殻)

(1) 適用範囲

疎水材を暗渠排水溝に投入する作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注1) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表(3)-1 機種を選定

作業区分	疎水材	機械名	規格	摘要
積込	—	バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	
ほ場内運搬・投入	チップ	不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量4.0~5.0t(疎水材投入機付)	
	砂利・砂 (ピリ砂利)	不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量6.3~7.0t(疎水材投入機付)	
	火山レキ・灰			
	ホタテ貝殻	不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量8.0~11.0t(疎水材投入機付)	

備考 1. 不整地運搬車・疎水材投入機の1日当り運転時間(T)は6.9時間とする。

(4) 施工歩掛

(4)-1 疎水材積込

疎水材積込歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-1 疎水材積込歩掛(N1)

(100m³当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	h	2.6	

(4) -2 疎水材投入

疎水材投入歩掛は、次表を標準とする。

表(4) -2-1 疎水材投入歩掛(N2) (100m3当り)

疎水材				チップ		砂利・砂(ピリ砂利)				火山レキ・灰		ホタテ貝殻	
掘削機械				トレンチャ	バックホウ	トレンチャ		バックホウ		トレンチャ	バックホウ	トレンチャ	バックホウ
耕地						水田・汎用田	畑・草地	水田・汎用田	畑・草地				
名称	規格(t)	単位	作業条件										
不整地 運搬車 運転	4.0	h	標準	13.0	9.0								
	~5.0		障害あり	17.0	11.7								
	6.3	"	標準			11.2	7.5	7.8	5.2	6.5	4.5		
	~7.0		障害あり			14.6	9.8	10.1	6.8	8.5	5.9		
8.0	"	標準									6.0	4.2	
~11.0		障害あり									7.8	5.5	
普通 作業員	-	人	標準	1.8		0.6				0.6		0.5	
			障害あり	2.3		0.8				0.8		0.7	

- 備考 1. 障害ありとは、過湿等により地盤状態が悪い又は、石レキ・埋木・固い地盤等により掘削作業の影響を受け、連続した作業が期待できない場合である。
 2. 平均運搬距離(片道)150m程度の現場内小運搬を含む。
 3. 掘削機械のバックホウは、標準型及びスリム型バケットとも同値である。
 4. 普通作業員は、疎水材均し等のための労務である。

平均運搬距離が150mを超える場合の運搬距離補正歩掛は次表を標準とし、不整地運搬車運転に加算する。

表(4) -2-2 運搬距離補正歩掛(N3) (100m3当り)

名称	規格(t)	単位	作業条件	150m超え 200m以下	200m超え 250m以下	250m超え 300m以下	300m超え 50mごと	疎水材
不整地 運搬車 運転	4.0	h	標準	0.3	0.6	0.9	0.3	チップ
	~5.0		障害あり	0.4	0.8	1.2	0.4	
	6.3	"	標準	0.5	1.1	1.7	0.6	砂利・砂(ピリ砂利) 火山レキ・灰
	~7.0		障害あり	0.7	1.4	2.1	0.7	
8.0	"	標準	0.3	0.6	0.9	0.3	ホタテ貝殻	
~11.0		障害あり	0.4	0.8	1.2	0.4		

- 備考 1. 表(4) -2-1の備考1と同じ。
 2. 300mを超える場合は、以下の例を参考に算出する。
 例：チップ・370mの場合、 $0.9 + 0.3 \times 2 = 1.5$ h / 100m3 (加算分)

(4) -3 材料の使用量

疎水材の使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m3)} = \text{設計量 (m3)} \times (1 + K) \dots\dots\dots \text{式(4) -1}$$

K：補正率

表(4) -3 補正率

名称	補正率
チップ	+0.24
砂利・砂	+0.16
火山レキ・灰	+0.13
ホタテ貝殻	+0.11

(5) 単価表

表(5) -1 疎水材投入 100m3当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積0.45m3(平積0.35m3)	h	N1	表(4) -1
不整地運搬車運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量〇~〇t(疎水材投入機付)	"	N2	表(4) -2-1
			N3	表(4) -2-2
普通作業員		人	N2	表(4) -2-1
疎水材		m3		式(4) -1
計				

- 備考 1. N1、N2、N3：100m3当り歩掛
 2. 疎水材の数量には、表(4) -3の補正率を含んでいる。

(6) 施工単価入力基準表

疎水材機械投入

コード	WN910240	施工単位	m3	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1 疎水材	J 2 掘削機械	J 3 耕地	J 4 不整地運搬車・作業条件
	① チップ ② 砂利・砂（ピリ砂利） ③ 火山レキ・灰 ④ ホタテ貝殻	① トレンチャ ② バックホウ	① 水田・汎用田 ② 畑・草地	① 標準 ② 障害あり
	J 5 普通作業員・作業条件	J 6 平均運搬距離	J 7 平均運搬距離（300m超え）	J 8 材料の有無
	① 標準 ② 障害あり	①150m以下 ②150m超え200m以下 ③200m超え250m以下 ④250m超え300m以下 ⑤300m超え	入力(m)	① 有り ② 無し

(注) 1. J1条件で②を選択した場合、J2条件～J8条件まで選択する。(J7条件は入力)

2. J1条件で①, ③, ④を選択した場合、J2条件、J4条件～J8条件を選択する。(J7条件は入力)

3. J6条件で⑤を選択した場合、J7条件を入力。

4. 材料使用量には下記の補正率を含んでいる。

- ・チップ +0.19
- ・砂利・砂 +0.13
- ・火山レキ・灰 +0.11

■単価登録：材料費：疎水材（Y0800003）

■諸雑費（まるめ）

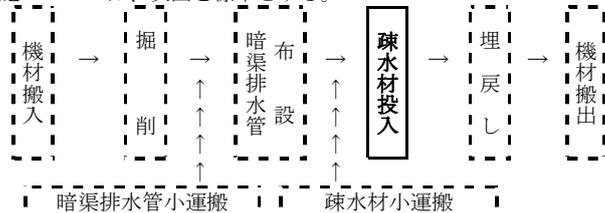
6-2 疎水材投入（モミガラ）（WN910250）

(1) 適用範囲

疎水材（モミガラ）を暗渠排水溝に投入する作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注1) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工歩掛

(3) -1 疎水材投入

疎水材投入歩掛は、次表を標準とする。

表（3）-1 疎水材投入歩掛(N)

(10m3当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	0.41	

(注)1. モミガラ材料費は、別途計上すること。

2. 袋詰め及び基地からの運搬が必要な場合は別途計上すること。

(3) -2 材料の使用量

疎水材の使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m3)} = \text{設計量 (m3)} \times (1+K) \dots\dots\dots \text{式 (3) -1}$$

K：補正率

表（3）-2 補正率

名称	補正率
モミガラ	+0.30

(4) 単価表

表（4）-1 疎水材投入（モミガラ） 10m3当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	N	表（3）-1
計				

備考 N：10m3当り歩掛

(5) 施工単価入力基準表

疎水材投入(モミガラ)

コード	WN910250	施工単位	m3
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. モミガラ材料費は別途計上する。

2. 材料使用量には補正率+0.30を計上する。

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

6-3 疎水材投入（モミガラ運搬、袋詰）【参考】【オプション入力】

(1) 適用範囲

本歩掛は、モミガラの袋詰及び公道等速度が期待できる運搬作業に適用する。

(2) 使用機械

モミガラ運搬に使用する機械は次表を標準とする。

表(2)-1 使用機械

資材名	工種	機械名	規格
モミガラ	運搬(基地～現場)	トラック	4～4.5 t

(3) 施工歩掛

(3)-1 モミガラ袋詰歩掛

表(3)-1 モミガラ袋詰歩掛 (100m³当り)

種別	職種	歩掛	摘要
モミガラ袋詰	普通作業員	6.7人	

備考 本表は、農家地先での袋詰作業を人力で行う場合に適用する。

(3)-2 モミガラ運搬歩掛

$$Q = \frac{60 \times q}{C_m} \quad (\text{m}^3/\text{hr})$$

Q : 運転1時間当りの作業量 (m³/hr)
 q : 1サイクル当り積載量 (m³)
 C_m : 1サイクル当り所要時間 (min)

① 1サイクル当り積載量 (m³)

q = 4～4.5 tトラック ～ 25.2 m³ (180袋、1袋容量0.14m³)

② 1サイクル当り所要時間 (min)

C_m = α・L + 89 (min)

$$L : \text{運搬距離 (km)} = \frac{\text{往路距離} + \text{復路距離}}{2}$$

(注) 1. C_mの89分には、空袋の集荷、配達、積込み、ロープ掛け、取卸しの所要時間を含む。
 (集荷16分、配達6分、積込み34分、ロープ掛5分、取卸し28分)
 2. 運搬距離(L)は0.01km位を四捨五入して0.1km位とする。

③ 運搬状況による係数

運搬路状況による係数(α)

状況区分		
舗装道	砂利道	現場内道路
3	5	9

備考 運搬区間内で状況が異なる場合は、延長により加重平均し、小数点以下を四捨五入して整数とする。

(3)-3 機械付補助労務

表(3)-2 機械付補助労務 (1日当り)

職種	数量	摘要
普通作業員	1人/日	

備考 補助労務は、空袋の集荷・配達、積込、ロープ掛け、取卸しの作業を行う。

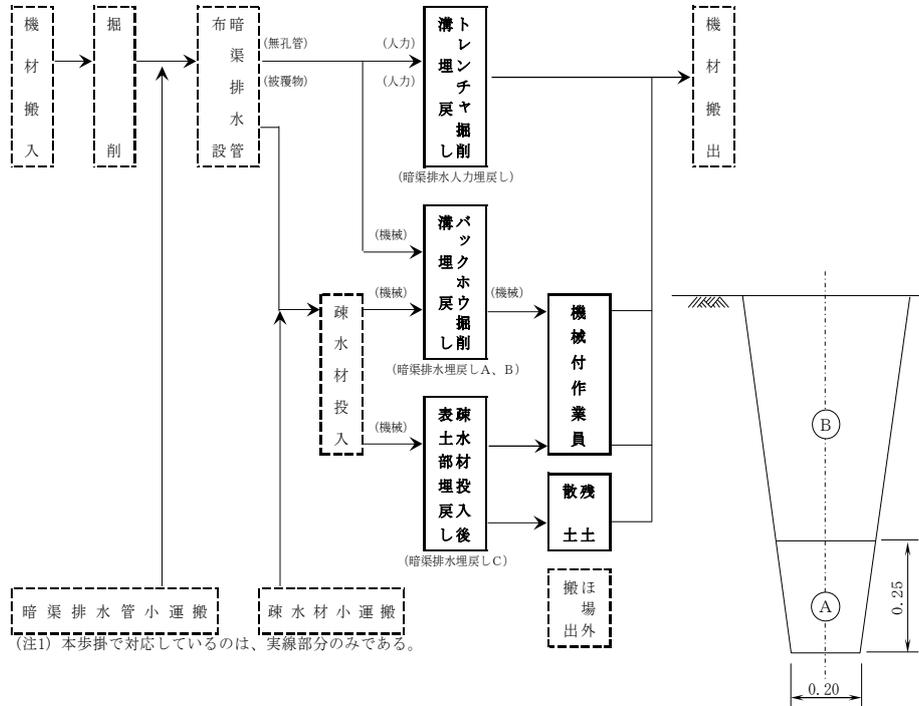
7 暗渠排水溝埋戻し (WN910260～WN910290)

(1) 適用範囲

暗渠排水溝の人力、ブルドーザによる埋戻し及び疎水材投入後の表土部の埋戻しに適用する。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



機械補助・跡地整理について

※ 暗渠排水埋戻しBにおいて、後工程においても整地、耕起、砕土等がない場合には、機械付作業員を計上する。

※ 暗渠排水埋戻しCにおいて残土散土をせず、後工程においても整地、耕起、砕土等がない場合には、機械付作業員を計上する。

(3) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表(3)-1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地 7t級	

(4) 施工歩掛

(4)-1 バックホウ掘削溝埋戻し

1) 人力埋戻し (暗渠排水埋戻しA)

溝底より25cmの部分 (参考図A) を人力で埋戻す歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-1-1 人力埋戻し歩掛(N1) (100m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	0.35	

備考 人足による締め込みを含む。

2) 機械埋戻し (暗渠排水埋戻しB)

人力埋戻し部分より上部 (参考図B) を機械で埋戻す歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-1-2 機械埋戻し歩掛(N2) (100m当り)

名 称	規 格	単 位	作 業 条 件	数 量	摘 要
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地 7t級	h	標準	0.46	
			障害あり	0.60	

備考 障害ありとは、地盤状態が悪い、埋戻し土が湿潤化しているなど連続した作業が期待できない場合である。

- (4) -2 疎水材暗渠埋戻し(暗渠排水埋戻しC)
 疎水材投入後の埋戻し歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-2 疎水材暗渠埋戻し歩掛(N3) (100m当り)

名称	規格	単位	数量			摘要
			作業 耕地	表土部 埋戻し	残土 散土	
ブルドーザ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地7t級	h	水田・汎用田	0.26	0.44	
			畑・草地	0.26	0.20	

備考 1. 残土散土には、耕作に支障がない程度の整地を含む。
 2. 疎水材投入後の埋戻し(残土均し含む)は、地表部埋戻し+残土散土を計上すること。

- (4) -3 機械付作業員
 ブルドーザ埋戻しの補助及び跡地整理のため計上する。

表(4)-3 機械付作業員歩掛(N4) (100m当り)

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	$\frac{T2}{T} \times 1.5$	T:ブルドーザ運転1日当り運転時間 T2:100m当り運転時間(h/100m)

備考 ブルドーザの1日当り運転時間(T)は、5.3時間とする。

- (4) -4 暗渠排水人力埋戻し
 全断面を人力により埋戻す場合に適用する。

表(4)-4-1 暗渠排水人力埋戻し歩掛(N5) (100m当り)

職種 土質	普通作業員(人)			摘要
	砂質土	粘性土	泥炭	
耕地 水田・汎用田	1.00	1.30	0.80	
畑・草地	0.80	1.10	0.60	

備考 本表を使用する場合は、下表の掘削深係数により補正する。

表(4)-4-2 掘削深係数(K)

掘削深(m)	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00	1.10
係数	0.70	0.80	0.90	1.00	1.10	1.20

(5) 単価表

表(5)-1 暗渠排水埋戻しA 100m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	N1	表(4)-1-1
計				

表(5)-2 暗渠排水埋戻しB 100m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員	(機械付作業員の有無に応じ)	人	N4	表(4)-3
ブルドーザ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 湿地7t級	h	N2	表(4)-1-2
計				

表(5)-3 暗渠排水埋戻しC 100m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員	(機械付作業員の有無に応じ)	人	N4	表(4)-3
ブルドーザ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 湿地7t級	h	N3	表(4)-2
計				

表(5)-4 暗渠排水人力埋戻し 100m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	N5*K	表(4)-4-1、2
計				

備考 N1、N2、N3、N4、N5:100m当り歩掛

(6) 施工単価入力基準表

暗渠排水埋戻し (A)

コード	WN910260	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	なし		

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

暗渠排水埋戻し (B)

コード	WN910270	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1 ブルドーザ		J 2 機械付作業員
	① 標準 ② 障害あり		① 有り ② 無し

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

暗渠排水埋戻し (C)

コード	WN910280	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1 疎水材暗渠埋戻し作業	J 2 疎水材暗渠埋戻し耕地	J 3 機械付作業員
	① 表土部埋戻し ② 残土散土	① 水田・汎用田 ② 畑・草地	① 有り ② 無し

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

暗渠排水人力埋戻し

コード	WN910290	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1 土質	J 2 耕地	J 3 掘削深(m)
	① 砂質土 ② 粘土土 ③ 泥炭	① 水田・汎用田 ② 畑・草地	① 0.60 ② 0.70 ③ 0.80 ④ 0.90 ⑤ 1.00 ⑥ 1.10

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

8 高速自動埋設暗渠工 (WN910320)

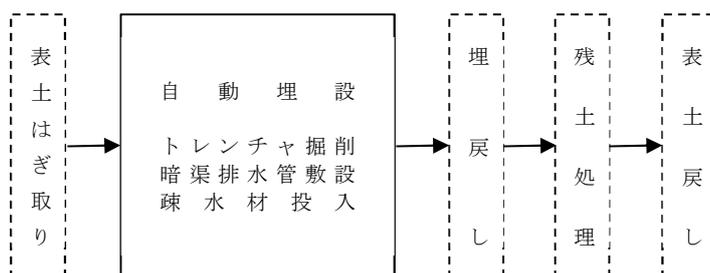
1. 適用範囲

本歩掛は、高速自動埋設機を用いた暗渠排水工事における、自動埋設（掘削、暗渠排水管敷設、疎水材投入まで）を行う作業に適用する。

- 1-1 適用する土質は泥炭とする。
- 1-2 掘削深さは1.5m以下とする。
- 1-3 掘削幅は150mmとする。
- 1-4 暗渠排水管は、合成樹脂管（定尺管及び長尺管）とする。
- 1-5 疎水材は一層とし、材料は碎石、貝殻を標準とする。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2. 暗渠排水管及び疎水材の材料費は、別途計上する。なお、疎水材の使用量は、農業土木工事における細部運用「6. 疎水材機械投入」の「表(4)-3」の補正率を準用する。
3. 自動埋設には、平均運搬距離（片道）300m程度までの暗渠排水管の小運搬及び疎水材の現場内小運搬を含む。

図2.1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	備 考
高速自動埋設機	標準型、出力119kW、掘削幅150mm、油圧式エレベータリング式ホッパー、定尺管送り装置付き、最大掘削深さ1.5m、レーザー計測機器付き	
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（3次基準値）山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型（1次基準値）・4～5t積	
電動式疎水材投入装置	3.7m ³ 電動式疎水材ホッパー（ハイレーション付き）発動発電機4kVA付き	

4. 施工歩掛

(1) 自動埋設

自動埋設の歩掛は次表を標準とする。

表4.1 自動埋設歩掛 (100m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.08	
普 通 作 業 員		〃	0.17	
高 速 自 動 埋 設 機 運 転	標準型、出力119kW、掘削幅150mm、油圧式エ レベーター式ホッパー、定尺管送り装置付き、 最大掘削深さ1.5m、レーザー計測機器付き	日	0.08	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・排出ガス対策型 (3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	0.08	
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型 (1次基準値) ・4~5t積	〃	0.16	
電 動 式 疎 水 材 投 入 装 置 運 転	3.7m ³ 電動式疎水材ホッパー (ハイブレーション付 き) 発動発電機4kVA付き	〃	0.16	

(注) 1. 平均運搬距離 (片道) 300m程度までの暗渠排水管の小運搬及びの疎水材の現場内小運搬を含む。

5. 単価表

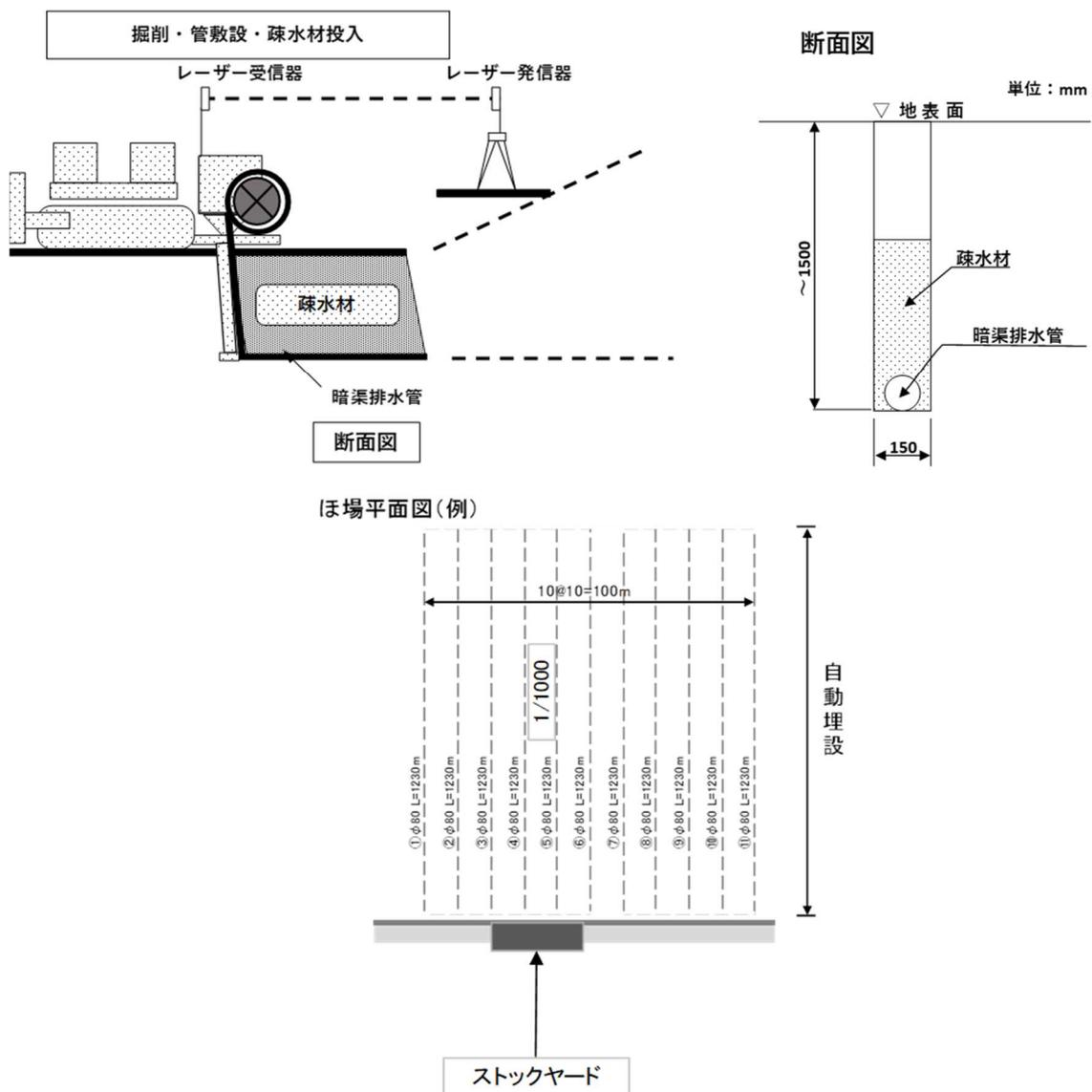
(1) 自動埋設100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
普 通 作 業 員		〃		〃
高 速 自 動 埋 設 機 運 転	標準型、出力119kW、掘削幅150mm、油圧式エ レベーター式ホッパー、定尺管送り装置付き、 最大掘削深さ1.5m、レーザー計測機器付き	日		〃
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・排出ガス対策型 (3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	日		〃
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型 (1次基準値) ・4~5t積	〃		〃
電 動 式 疎 水 材 投 入 装 置 運 転	3.7m ³ 電動式疎水材ホッパー (ハイブレーション付 き) 発動発電機4kVA付き	〃		〃
諸 雑 費		式	1	

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
高速自動埋設機	標準型、出力119kW、掘削幅150mm、油圧式レベリング式ホッパー、定尺管送り装置付き、最大掘削深さ1.5m、レーザー計測機器付き	機-28	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 126 賃料数量 → 1.59
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	機-28	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 69 賃料数量 → 1.59
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型 (1次基準値)・4~5t積	機-28	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 77 賃料数量 → 1.59
電動式疎水材 投入装置	3.7m ³ 電動式疎水材ホッパー(ハイレション付き) 発動発電機4kVA付き	機-16	主 燃 料 → ガソリン 燃料消費量 → 18.9 賃料数量 → 1.59

【参考資料】



(5) 施工単価入力基準表

高速自動埋設暗渠工

コード	WN910320	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	なし		

- (注) 1. モミガラ材料費は別途計上する。
2. 材料使用量には補正率+0.30を計上する。

■単価登録：なし

■諸雑費（まるめ）

高速自動埋設機運転

コード	WP996010	施工単位	日
施工区分	入力条件		
各種	なし		

■単価登録：材料費：高速自動埋設機（Y0800015）

■諸雑費（まるめ）

不整地運搬車運転

コード	WP996030	施工単位	日
施工区分	入力条件		
各種	なし		

■単価登録：材料費：不整地運搬車（Y0800015）

■諸雑費（まるめ）

電動式疎水材投入装置運転

コード	WP996040	施工単位	日
施工区分	入力条件		
各種	なし		

■単価登録：材料費：電動式疎水材投入装置（Y0800015）

■諸雑費（まるめ）

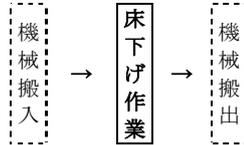
9 附帯明渠掘削（床下げ）（WN910310）

（1）適用範囲

本歩掛は、暗渠排水工における既存の附帯明渠の床下げを法面バケット付バックホウにより、連続して作業を行う場合に適用する。

（2）施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

（3）使用機械

機種は次表を標準とする。

表（3）．1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
バックホウ	(法面バケット付) 排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.60m ³)	

（4）施工歩掛

附帯明渠床下げ歩掛は、次表を標準とする。

表（4）．1 附帯明渠掘削（床下げ）歩掛（N）

(100m²当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ	(法面バケット付)排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.60m ³)	h	2.8	
普通作業員		人	0.36	

備考 1. 残土処理は含めない。

2. 普通作業員は掘削(床下げ)の補助作業である。

（5）附帯明渠床下げ 100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ	(法面バケット付)排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.60m ³)	h	N×平均法長	表（4）．1
普通作業員		人	N×平均法長	〃
計				

備考 1. N: 100m²当り歩掛

2. 受取対象がm当りとなるため、1m当りの法面積を乗じて算出すること。

3. 「平均法長」とは、断面当りの全法長としている。

（6）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	(法面バケット付) 排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.60m ³)	機-1	運転労務数量→0.17

（7）施工単価入力基準表

附帯明渠掘削（床下げ）

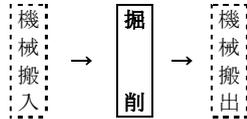
コード	WN910310	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	平均法長		
	実数入力(m)		

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

10 附帯明渠掘削 (WN910330)

(1) 適用範囲
本歩掛は、専用バケットによる新設附帯明渠掘削作業に適用する。

(2) 施工概要
施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工機種
機種は次表を標準とする。

表(3). 1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
バックホウ	(専用バケット装着) 排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	

(4) 施工歩掛
附帯明渠掘削歩掛は、次表を標準とする。

表(4). 1 附帯明渠掘削歩掛 (N) (100m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ	(専用バケット装着) 排出ガス対策型 (第2次基準値)クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	日	1.18	
諸雑费率		%	4	

備考 1. 残土処理は含めない。
2. 諸雑费率は、専用バケットの費用であり、機械経費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(5) 附帯明渠掘削 100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ	(専用バケット装着) 排出ガス対策型 (第2次基準値)クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	日	N	表(4). 1
諸雑费率		式	1	//
計				

備考 N: 100m³当り歩掛

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
バックホウ	(専用バケット装着) 排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機-28	運転労務 →1.00 燃料消費量 →34 賃料数量 →1.10

(7) 施工単価入力基準表

附帯明渠掘削

コード	WN910330	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	なし		

(注)1. 単価には諸雑费率4%を含んでいる。

■単価登録: なし ■諸雑費 (率+まるめ)

④ ほ場整備・客土工

2 ほ場整備整地工（水田）（WNWN910700～WN910770）

(1) 適用範囲

本資料は、ほ場整備整地工（水田）の表土整地、基盤整地等の作業に適用する。

ただし、現況地形の平均勾配が1/10を超える急傾斜地及び、極端に扱い土量の少ない平坦地の場合（現況水田の高低差が±10cm程度以下）については、農林水産省土地改良事業等請負工事標準歩掛を適用する。

なお、工事の内容及び現場条件等により本歩掛の適用が難しい場合は、適正と認められる実績又は資料によるものとする。

(1) -1 本歩掛で算定する運転時間は、次のとおりである。

- (1) -1-1 表土はぎ取り及び表土戻しに要する時間
- (1) -1-2 基盤切盛に要する時間
- (1) -1-3 整地工に要する時間（表土整地「本整地及び粗整地」、基盤整地）
- (1) -1-4 畦畔築立に要する時間（畦畔用土の盛土及び転圧「普通畦畔及び幅広畦畔」）
- (1) -1-5 道路用土の集積、旧排水路の埋戻し、用排水路掘削の残土整地に要する時間
- (1) -1-6 ブルドーザで作業可能なコンクリート塊、再利用しない石積み等通常の障害物除去に要する時間

(1) -2 本歩掛には、次の作業は含まれていないため、必要な場合は別途計上する。

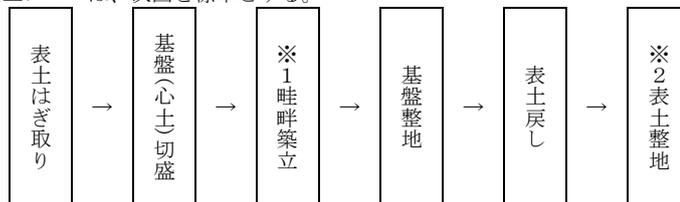
- (1) -2-1 用排水路掘削に使用するバックホウ等の運転時間
- (1) -2-2 客土及び道路用土等の地区外からの搬入、地区内からの搬出
- (1) -2-3 畑地の移設、クレーク等の埋立て等、大規模な扱い土量のある場合
- (1) -2-4 筆外運土や土取場等から土の搬入があった際、その土を均す作業
- (1) -2-5 道路用土のまき出し転圧
- (1) -2-6 湧水及び湿地帯等の仮排水路の掘削作業
- (1) -2-7 畦畔築立（普通畦畔及び幅広畦畔）の法面仕上げ
- (1) -2-8 面的な抜排根（樹園地等）

(1) -3 各施工区分別の対象数量は、表土扱い面積とする。

なお、畦畔築立の対象数量は、延長とする。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



※1 畦畔築立は作業条件により前後する。また、畦畔材料をほ場外から調達する場合は、必要経費を別途、計上するものとする。

※2 表土整地は施工時期等により「粗整地」と「本整地」に区分されるが、特記仕様書に発注者が求める作業を明記するものとする。

※3 表土扱いの順送り工法の場合は別途、考慮する。

※4 表土はぎ取り、基盤（心土）切盛、基盤整地、表土戻し、表土整地には、現場実態を反映した積算とするため、工種別に算定した係数（P149参照）を機械経費に乗じるものとする。

(3) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表（3）-1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
ブルドーザ	湿地・排出ガス対策型（2011年規制）20t級（19～21t）	分解組立運搬対象機械
	超々湿地・排出ガス対策型（第2次基準値）10t級（10t）	
バックホウ（クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	
	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）級	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ・全旋回式・ 排出ガス対策型（第2次基準値）6～7t積	

(4) 施工歩掛

(4)-1 表土はぎ(剥ぎ取り戻し工法)

表土はぎ取りの歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-1 表土はぎ取り歩掛(N) (1ha当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.27	
普通作業員		人	0.64	
ブルドーザ運転	湿地・排出ガス対策型(2011年規制) 20t級(19~21t)	h	18.6	
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	h	8.1	
諸雑費率		%	1	

(注) 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4)-2 基盤切盛

基盤切盛の歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-2 基盤切盛歩掛(N) (1ha当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.35	
普通作業員		人	0.81	
ブルドーザ運転	湿地・排出ガス対策型(2011年規制) 20t級(19~21t)	h	36.9	
諸雑費率		%	1	

(注) 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4)-3 基盤整地

基盤整地の歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-3 基盤整地歩掛(N) (1ha当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.14	
普通作業員		人	0.46	
ブルドーザ運転	超々湿地・排出ガス対策型(第2次基準値) 10t級(10t)	h	7.8	
諸雑費率		%	2	

(注) 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4)-4 表土戻し(剥ぎ取り戻し工法)

表土戻しの歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-4 表土戻し歩掛(N) (1ha当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.23	
普通作業員		人	0.77	
ブルドーザ運転	湿地・排出ガス対策型(2011年規制) 20t級(19~21t)	h	17.9	
諸雑費率		%	1	

(注) 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4)-5 表土整地(本整地)

表土整地(本整地)の歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-5 表土整地歩掛(N) (1ha当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.30	
普通作業員		人	1.30	
ブルドーザ運転	超々湿地・排出ガス対策型(第2次基準値) 10t級(10t)	h	6.8	
諸雑費率		%	1	

(注) 1 粗整地を行う場合は、別途計上する。
2 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4)-6-1 普通畦畔(上幅0.5m程度)築立(ほ場内集土の場合)

普通畦畔築立の歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-6-1 普通畦畔築立歩掛(N) (100m当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.14	
普通作業員		人	0.89	
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	h	10.2	
諸雑費率		%	1	

(注) 1 法面整形費は、別途計上する。

2 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4)-6-2-1 幅広畦畔(上幅2.0~3.0m)築立(ほ場内集土の場合)

幅広畦畔築立の歩掛は、次表を標準とする。

表(4)-6-2-1 幅広畦畔築立歩掛(N) (100m当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.14	
普通作業員		人	0.89	
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	h	30.7	
諸雑費率		%	1	

(注) 1 法面整形費は、別途計上する。

2 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

現場条件により不整地運搬車が必要となる場合は、下記歩掛(表(4)-6-2-2)を使用すること。

表(4)-6-2-2 幅広畦畔築立歩掛(N) (100m当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.14	
普通作業員		人	0.89	
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	h	37.7	
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ・全旋回式・ 排出ガス対策型(第2次基準値)6~7t積	日	2.1	
諸雑費率		%	1	

(注) 1 法面整形費は、別途計上する。

2 諸雑費は、レーザマシン等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4)-6-2-3 畦畔築立(ほ場外搬入土の場合)

【現場条件により】

- ① BH積み込み(工事対象土量により機種選定)
~採取料金等が必要な場合は別途計上
- ② ダンプ運搬
- ③ 小運搬車積込(0.8m³BHが基本)……必要に応じて計上
- ④ 小運搬(現場条件により機種選定)……必要に応じて計上
- ⑤ 畦畔復旧工(土地改良工事積算基準(農水省))

(5) 作業重機械の分解組立運搬について

- ① ブルドーザ標準機種の湿地20t級ブルドーザは分解組立運搬を要する対象機種である。
- ② 上記機種の工事区域内の「ほ場間移動」は、道路法適用道路を使用する運搬又は、横断する場合は当該道路管理者と協議を行い、必要に応じて適正に費用を計上するものとする。

(6) 標準作業日数について

作業別標準作業日数は表1のとおりとする。

(7) レーザマシンについて

レーザマシンの装着を標準とし、名称は下記とする。

- ① レーザー受光器
- ② レーザー発光器

【表1】 標準作業日数

施工区分	単位	標準作業日数	摘 要
表土はぎ取り	日/ha	2.2	
基盤切盛	日/ha	3.8	
		4.3	不整地運搬車が必要となる場合
基盤整地	日/ha	1.1	
表土戻し	日/ha	2.1	
表土整地	日/ha	1.0	
普通畦畔築立	日/100m	1.2	
幅広畦畔築立	日/100m	4.4	
		3.6	不整地運搬車が必要となる場合

算出条件

- 雨天、休日等に伴う休工期等（稼働率）を考慮しない作業日数である。
- 標準作業日数は主機械1台体制時で作業する場合である。
- 現場条件等、上表によりがたい場合は別途算出する。

参考

- 月当たり稼働日数：18日

(8) 単価表

(8)-1 表土はぎ取り1ha当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表(4)-1
普通作業員		人		〃
ブルドーザ運転	湿地・排出ガス対策型（2011年規制） 20t級（19～21t）	h		〃
バックホウ（クローラ型）運転	標準型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	h		〃
諸雑費率		式	1	〃

(8)-2 基盤切盛1ha当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表(4)-2-1
普通作業員		人		〃
ブルドーザ運転	湿地・排出ガス対策型（2011年規制） 20t級（19～21t）	h		〃
諸雑費率		式	1	〃

(8)-3 基盤整地1ha当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表(4)-3
普通作業員		人		〃
ブルドーザ運転	超々湿地・排出ガス対策型（第2次基準値） 10t級（10t）	h		〃
諸雑費率		式	1	〃

(8)-4 表土戻し1ha当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表(4)-4
普通作業員		人		〃
ブルドーザ運転	湿地・排出ガス対策型（2011年規制） 20t級（19～21t）	h		〃
諸雑費率		式	1	〃

(8)-5 表土整地（本整地）1ha当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表(4)-5
普通作業員		人		〃
ブルドーザ運転	超々湿地・排出ガス対策型（第2次基準値） 10t級（10t）	h		〃
諸雑費率		式	1	〃

(8)-6-1 普通畦畔築立100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人		表(4)-6-1
普通作業員		人		〃
バックホウ（クローラ型）運転	標準型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	h		〃
諸雑費率		式	1	〃

(8)-6-2-1 幅広畦畔築立100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人		表(4)-6-2-1
普通作業員		人		〃
バックホウ（クローラ型）運転	標準型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	h		〃
諸雑費率		式	1	〃

現場条件により不整地運搬車が必要となる場合

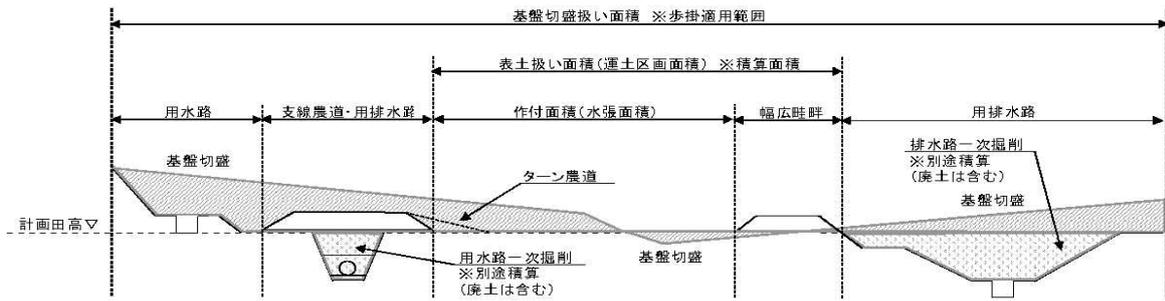
(8)-6-2-2 幅広畦畔築立100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	0.14	表(4)-6-2-2
普通作業員		人	0.89	〃
バックホウ（クローラ型）運転	標準型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	h	37.7	〃
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ・全旋回式・ 排出ガス対策型（第2次基準値）6～7t積	日	2.1	〃
諸雑費率		式	1	〃

(8)-7 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	湿地・排出ガス対策型（2011年規制） 20t級（19～21t）	機-1	
ブルドーザ	超々湿地・排出ガス対策型（第2次基準値） 10t級（10t）	機-1	
バックホウ（クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	機-1	
バックホウ（クローラ型）	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）級	機-1	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ・全旋回式・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 6～7t積	機-28	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 100 賃料数量 → 2.31

【参考資料】



- ※1 積算にあたっては、「表土扱い面積(運土区画面積) ※積算面積」で算出する。「(「基盤切盛扱い面積 ※歩掛適用範囲」の費用も含む。)
- 過去の歩掛調査結果
「基盤切盛扱い面積 ※歩掛適用範囲」から算出された数量を、「表土扱い面積(運土区画面積) ※積算面積」で割返して算出。
よって、「表土扱い面積(運土区画面積) ※積算面積」で計上することによって、「基盤切盛扱い面積 ※歩掛適用範囲」まで含む。
- ※2 ターン農道(支線農道法尻以降)及び幅広畦畔(普通畦畔含む)は「表土扱い面積(運土区画面積) ※積算面積」に含めるものとする。
- ※3 畦畔、支線農道、用水路法面の法面整形は別途計上する。
- ※4 ターン農道、進入路、犬走りは別途計上する。
- ※5 用排水路一次掘削の廃土は、基盤切盛に含まれる。ただし現場外に搬出する場合は、運搬費と残土整地を別途計上する。

表土扱い面積に対する各施工区分別の面積比率 (参考)

施工区分	表土扱い面積に対する比率
表土はぎ取り	0.986
基盤(心土)切盛	1.080
基盤整地	0.976
表土戻し	0.989
表土整地	0.989

(9) 施工単価入力基準表

表土はぎ(剥ぎ取り戻し工法)

コード	WN910700	施工単位	ha
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. 単価には諸雑費率1%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費(率+まるめ)

基盤切盛

コード	WN910710	施工単位	ha
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. 単価には諸雑費率1%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費(率+まるめ)

基盤整地

コード	WN910720	施工単位	ha
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. 単価には諸雑費率2%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費(率+まるめ)

表土戻し(剥ぎ取り戻し工法)

コード	WN910730	施工単位	ha
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. 単価には諸雑費率1%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費(率+まるめ)

表土整地(本整地)

コード	WN910740	施工単位	ha
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. 単価には諸雑費率1%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費(率+まるめ)

普通畦畔築立

コード	WN910760	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1.単価には諸雑费率1%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費（率+まるめ）

幅広畦畔築立

コード	WN910770	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J1		
	施工区分		
	① 幅広畦畔（ハック材） ② 幅広畦畔（ハック材、不整地運搬車）		

(注)1.単価には諸雑费率1%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費（率+まるめ）

1.係数設定条件

工種	係数設定条件	備考
表土はぎ取り	運土区画表土量	農区平均整地面積×表土はぎ厚さ
基礎(心土)切盛	運土区画面積×勾配	農区平均整地面積×塙況平均勾配
基礎整地	運土区画面積	農区平均整地面積
表土戻し	運土区画表土量	農区平均整地面積×表土戻し厚さ
表土整地	運土区画面積	農区平均整地面積

2.工種別係数

(1)表土はぎ取り

表土量(m3)	係数
1,000まで	1.04
2,000まで	1.11
3,000まで	1.17
4,000まで	1.23
5,000まで	1.29
6,000まで	1.36
7,000まで	1.42
8,000まで	1.48
9,000まで	1.54
10,000まで	1.60
11,000まで	1.67
12,000まで	1.73
13,000まで	1.79
14,000まで	1.85
15,000まで	1.92
16,000まで	1.98
17,000まで	2.04
18,000まで	2.10
19,000まで	2.18
20,000まで	2.23

(2)基礎(心土)切盛

面積(m2)×勾配(%)	係数	面積×勾配	係数
1,000まで	0.81	59,000まで	3.52
2,000まで	0.86	60,000まで	3.57
3,000まで	0.91	61,000まで	3.62
4,000まで	0.95	62,000まで	3.66
5,000まで	1.00	63,000まで	3.71
6,000まで	1.05	64,000まで	3.76
7,000まで	1.09	65,000まで	3.80
8,000まで	1.14	66,000まで	3.85
9,000まで	1.19	67,000まで	3.90
10,000まで	1.23	68,000まで	3.94
11,000まで	1.28	69,000まで	3.99
12,000まで	1.33	70,000まで	4.04
13,000まで	1.37	71,000まで	4.08
14,000まで	1.42	72,000まで	4.13
15,000まで	1.47	73,000まで	4.18
16,000まで	1.51	74,000まで	4.22
17,000まで	1.56	75,000まで	4.27
18,000まで	1.61	76,000まで	4.32
19,000まで	1.65	77,000まで	4.36
20,000まで	1.70	78,000まで	4.41
21,000まで	1.75	79,000まで	4.46
22,000まで	1.79	80,000まで	4.50
23,000まで	1.84	81,000まで	4.55
24,000まで	1.89	82,000まで	4.60
25,000まで	1.93	83,000まで	4.64
26,000まで	1.98	84,000まで	4.69
27,000まで	2.03	85,000まで	4.74
28,000まで	2.07	86,000まで	4.78
29,000まで	2.12	87,000まで	4.83
30,000まで	2.17	88,000まで	4.88
31,000まで	2.21	89,000まで	4.92
32,000まで	2.26	90,000まで	4.97
33,000まで	2.31	91,000まで	5.02
34,000まで	2.35	92,000まで	5.06
35,000まで	2.40	93,000まで	5.11
36,000まで	2.45	94,000まで	5.16
37,000まで	2.49	95,000まで	5.20
38,000まで	2.54	96,000まで	5.25
39,000まで	2.59	97,000まで	5.30
40,000まで	2.63	98,000まで	5.34
41,000まで	2.68	99,000まで	5.39
42,000まで	2.73	100,000まで	5.44
43,000まで	2.77		
44,000まで	2.82		
45,000まで	2.87		
46,000まで	2.91		
47,000まで	2.96		
48,000まで	3.01		
49,000まで	3.06		
50,000まで	3.10		
51,000まで	3.15		
52,000まで	3.20		
53,000まで	3.24		
54,000まで	3.29		
55,000まで	3.34		
56,000まで	3.38		
57,000まで	3.43		
58,000まで	3.48		

(3)基礎整地

面積(m2)	係数
5,000まで	1.00
6,000まで	1.01
7,000まで	1.02
8,000まで	1.04
9,000まで	1.05
10,000まで	1.06
11,000まで	1.07
12,000まで	1.09
13,000まで	1.10
14,000まで	1.11
15,000まで	1.12
16,000まで	1.14
17,000まで	1.15
18,000まで	1.16
19,000まで	1.17
20,000まで	1.19
21,000まで	1.20
22,000まで	1.21
23,000まで	1.22
24,000まで	1.24
25,000まで	1.25
26,000まで	1.26
27,000まで	1.27
28,000まで	1.29
29,000まで	1.30
30,000まで	1.31
31,000まで	1.32
32,000まで	1.34
33,000まで	1.35
34,000まで	1.36
35,000まで	1.37
36,000まで	1.39
37,000まで	1.40
38,000まで	1.41
39,000まで	1.42
40,000まで	1.44
41,000まで	1.45
42,000まで	1.46
43,000まで	1.47
44,000まで	1.49
45,000まで	1.50
46,000まで	1.51
47,000まで	1.52
48,000まで	1.54
49,000まで	1.55
50,000まで	1.56
51,000まで	1.57
52,000まで	1.59
53,000まで	1.60
54,000まで	1.61
55,000まで	1.62
56,000まで	1.64
57,000まで	1.65
58,000まで	1.66
59,000まで	1.67
60,000まで	1.69
61,000まで	1.70
62,000まで	1.71

(4)表土戻し

表土量(m3)	係数
1,000まで	1.22
2,000まで	1.25
3,000まで	1.29
4,000まで	1.32
5,000まで	1.36
6,000まで	1.40
7,000まで	1.43
8,000まで	1.47
9,000まで	1.50
10,000まで	1.54
11,000まで	1.57
12,000まで	1.61
13,000まで	1.65
14,000まで	1.68
15,000まで	1.72
16,000まで	1.75
17,000まで	1.79
18,000まで	1.83
19,000まで	1.88
20,000まで	1.90

(5)表土整地

面積(m2)	係数
5,000まで	1.55
6,000まで	1.55
7,000まで	1.55
8,000まで	1.56
9,000まで	1.56
10,000まで	1.55
11,000まで	1.55
12,000まで	1.55
13,000まで	1.55
14,000まで	1.56
15,000まで	1.56
16,000まで	1.56
17,000まで	1.56
18,000まで	1.56
19,000まで	1.56
20,000まで	1.56
21,000まで	1.56
22,000まで	1.56
23,000まで	1.57
24,000まで	1.57
25,000まで	1.57
26,000まで	1.57
27,000まで	1.57
28,000まで	1.57
29,000まで	1.57
30,000まで	1.57
31,000まで	1.57
32,000まで	1.58
33,000まで	1.58
34,000まで	1.58
35,000まで	1.58
36,000まで	1.58
37,000まで	1.58
38,000まで	1.58
39,000まで	1.58
40,000まで	1.58
41,000まで	1.58
42,000まで	1.58
43,000まで	1.59
44,000まで	1.59
45,000まで	1.59
46,000まで	1.59
47,000まで	1.59
48,000まで	1.59
49,000まで	1.59
50,000まで	1.59
51,000まで	1.60
52,000まで	1.60
53,000まで	1.60
54,000まで	1.60
55,000まで	1.60
56,000まで	1.60
57,000まで	1.60
58,000まで	1.60
59,000まで	1.60
60,000まで	1.60
61,000まで	1.61
62,000まで	1.61

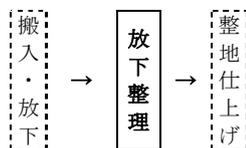
3 放下整理工 (WN910800)

(1) 適用範囲

本資料は、客土工においてほ場内に坪置き（小山配置）及び、帯置き（带状配置）した土をほ場に概ね均等に分散させる作業に適用する。ただし整地を含まないものとする。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種を選定

使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表(3). 1 機種を選定

機 械 名	規 格	摘 要
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 13t級湿地ブルドーザ	

(4) 施工歩掛

1) 放下整理 (イ)

ほ場に直接10~11tダンプトラック及び、不整地運搬車で坪置き、帯置きした土をほ場に概ね均等に分散させる作業。

表(4). 1 放下整理 (イ) 歩掛 (客入量100m3当り)

機 種	単 位	数 量	摘 要
排出ガス対策型 (第2次基準値) 13t級湿地ブルドーザ	h	0.9	

(5) 放下整理 (イ) 1m3当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 13t級湿地ブルドーザ	日	N / 100	表(4). 1
計				

備考 N: 100m3当り歩掛

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 13t級湿地ブルドーザ	機-1	

(7) 施工単価入力基準表

放下整理 (イ)

コード	WN910800	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	なし		

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

⑤ 農用地造成

1 心土破碎 (WN910360)

(1) 適用範囲

本資料は、農用地造成工事のパンプレーカによる心土破碎作業に適用する。

(2) 施工概要

下層に堅密層が形成され十分な透水性、通気性が得られない場合に、これを破碎膨軟することによって、心土の土壤環境（透水性、保水性、通気性）を改良する作業である。

(3) 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表(3)．1 機種を選定

作 業	機 械 名	規 格
パンプレーカ心土破碎	湿地ブルドーザー	16t級
	パンプレーカ	(直装式) 3本爪、作業幅2.7m級 心土破碎深 0.45～0.60m

(4) 施工歩掛

① 作業能力算定式

$$T = T' \times E$$

T : ha当り運転時間 (hr/ha)
T' : ha当り基準運転時間 (hr/ha)
E : 作業効率

$$E = F1 \times F2 \times F3 \times F4$$

F1 : 土質係数
F2 : 湿潤係数
F3 : 作業係数
F4 : ほ場長辺長係数

② 基準運転時間 (T')

$$T' = 1.60 \text{ (hr/ha)}$$

③ 作業効率 (E)

表(4)．1 土質係数 (F1)

土質区分	砂質土	粘性土	摘 要
F1	1.00	1.15	

表(4)．2 湿潤係数 (F2)

湿潤区分	乾燥型	湿潤型	摘 要
F2	1.00	1.15	

表(4)．3 作業係数 (F3)

区 分	係 数	作 業 条 件
標準	1.00	地表面が平坦かつ地表、地下ともに障害物が少なく作業が標準的に行われる場合。
障害あり	1.15	不陸及び障害物があり作業が困難な場合。

表(4)．4 ほ場長辺長係数 (F4)

ほ場の長辺長区分	100m	150m	200m	250m	300m	350m	400m	摘 要
	F4	1.06	1.03	1.00	0.97	0.94	0.91	

④ 作業機械の運転時間

パンプレーカの1日当り運転時間は5.7時間とする。

(5) 単価表

表(5)．1 パンプレーカ心土破碎 ha当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
パンプレーカ運転	直装式3本爪、作業幅2.7m級	hr	1	表(4).1～表(4).4
計				

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
パンプレーカ	(直装式) 3本爪 作業幅2.7m級	機-3	機械損料1→16t湿地ブルドーザ 機械損料2→パンプレーカ (直装式) 3本爪、作業幅2.7m級

(7) 施工単価入力基準表

パンプレーカ心土破碎

コード	WN910360	施工単位	ha
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	土質区分	湿潤区分	作業区分
	① 砂質土 ② 粘性土	① 乾燥型 ② 湿潤型	① 標準 ② 障害あり

J 4
ほ場長辺長区分
① 100m(125未満)
② 150m(125～175m未満)
③ 200m(175～225m未満)
④ 250m(225～275m未満)
⑤ 300m(275～325m未満)
⑥ 350m(325～375m未満)
⑦ 400m(375m以上)

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

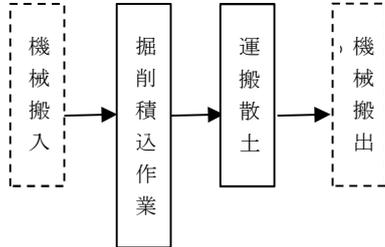
2 農地造成工（スクレープドーザ掘削）（WN011001）

(1) 適用範囲

本歩掛は、改良山成工による農地造成工におけるスクレープドーザによる掘削散土作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種を選定

スクレープドーザの機種、規格は次表とする。

表(3) . 1 機種を選定

機 種	規 格
スクレープドーザ	(普通26tボウル容量8.0m3)

(注) 当該土質に岩塊・玉石が混入している場合（転石混り土以下の混入）は、混入している岩塊・玉石等の粒径及び混入状態等を勘案のうえ、標準機種により難しい場合は別途考慮する。

(4) 施工歩掛

運転1時間当たり作業量は、次の算定式によって求める。

$$Q = 60 \times q \times f \times E / C_m$$

Q : 運転1時間当たり作業量 (m³/hr)
 q : 1サイクル当りの掘削運搬量 (m³)
 f : 土量換算係数
 E : 作業効率
 C_m : 1サイクル当り所要時間 (min)

(4) - 1 1サイクル当りの掘削運搬量 (q)

$$q = q_0 \times K$$

q₀ : 平積公称容量 (m³)
 スクレープドーザ普通26t級 q₀ = 8.0m³
 K : 積載係数 0.85

(4) - 2 1サイクル当り所要時間 (C_m)

$$C_m = 0.0162L + 1.25 \text{ (min)}$$

L : 運土距離 (m) C_m計算に用いる運土距離は、5mの整数倍とする。

(4) - 3 作業効率 (E)

表(4) . 1 作業効率

土質名 \ 作業条件	良 好	普 通	不 良
	砂	—	0.80
砂 質 土	0.85	0.75	0.65
礫 質 土	0.70	0.60	0.50
粘 性 土	0.55	0.45	0.35

(注) 1. 良好：作業現場が広く走行路に制約がない、扱い土が適度に乾燥している。機械の出合が少ない、扱い土の厚さが適度にある等、作業速度と積載量に期待できる場合。
 不良：作業現場が狭くて機械の出合が多い、上り勾配で湿潤である、扱い土の厚さが薄い、固結している等、作業速度と積載量に期待できない場合。
 普通：上記の諸条件がほぼ中位と考えられる場合。
 2. 作業勾配の限界は15°を標準とする。

(5) 単価表

スクレールドーザ掘削1時間 (Qm3) 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
スクレールドーザ運転	26t級	時間	1.0	
計				

機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
スクレールドーザ	普通26t級、容量8.0m3	機一1	

(6) 施工単価入力基準表

農地造成工 (スクレールドーザ掘削)

コード	WN011001	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 土質名		J 2 作業条件
	① 砂 ② 砂質土 ③ 礫質土 ④ 粘性土	① 良好 ② 普通 ③ 不良	
J 3 土量換算係数		J 4 運土距離 (5mの整数倍)	
実数入力(無)		実数入力(m)	

■単価登録：なし ■諸雑費 (まるめ)

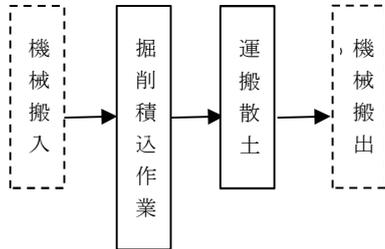
3 農地造成工（被けん引式スクレーパ掘削）（WN011002）

(1) 適用範囲

本歩掛は、改良山成工による農地造成工における被けん引式スクレーパによる掘削散土作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種を選定

被けん引式スクレーパ及びブルドーザの機種、規格は次表とする。

表(3)・1 機種を選定

機種	規格 (ボウル平積容量)	けん引トラクタ	ブルドーザ (プッシャ用)
被けん引式スクレーパ	12m ³ 級	21t級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 21t級
	17m ³ 級	32t級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 32t級

(注) 当該土質に岩塊・玉石が混入している場合(転石混り土以下の混入)は、混入している岩塊・玉石等の粒径及び混入状態等を勘案のうえ、標準機種により難しい場合は別途考慮する。

(4) 施工歩掛

運転1時間当たり作業量は、次の算定式によって求める。

$$Q = 60 \times q \times f \times E / C_m$$

- Q : 運転1時間当たり作業量 (m³/hr)
- q : 1サイクル当りの掘削運搬量 (m³)
- f : 土量換算係数
- E : 作業効率
- C_m : 1サイクル当り所要時間 (min)

(4) - 1 1サイクル当りの掘削運搬量 (q)

$$q = q_0 \times K$$

q_0 : ボウル平積容量 (m³)
 K : 積載係数 0.88

(4) - 2 1サイクル当り所要時間 (C_m)

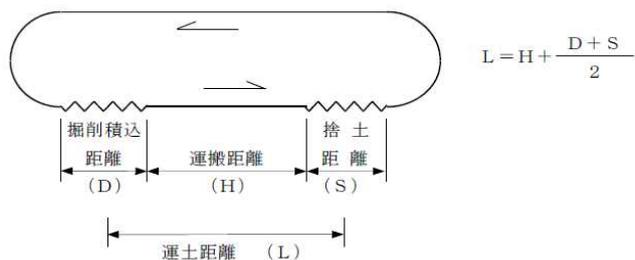
プッシャを使用しない場合

$$C_m = 0.030L + 3.30 \text{ (min)}$$

プッシャ使用の場合

$$C_m = 0.030L + 2.75 \text{ (min)}$$

L : 運土距離 (m) で、5mの整数倍とする。



(4) - 3 作業効率 (E)

表(4) . 1 作業効率

土質名 \ 作業条件	良 好	普 通	不 良
砂 質 土	1.10	1.00	0.90
礫 質 土	0.95	0.85	0.75
粘 性 土	0.85	0.75	0.65

- (注) 1. 良好：走行路の地盤状態がよく、かつ、ボウルに十分積込みできる等の場合。
 不良：走行路の地盤状態が悪く、かつ、ボウルに十分積込むことが困難等の場合。
 普通：上記の諸条件がほぼ中位と考えられる場合。
2. 作業勾配の限界は15°を標準とする。
3. 掘削土が固い又は軟弱などのため、けん引トラクタのみでは掘削困難等の場合はプッシャの使用を考慮する。
4. プッシャを使用する場合の作業効率は、判定値に0.05を加えた数値を採用する。

(4) - 4 運転時間

プッシャ用ブルドーザ運転時間は1サイクル当たり1.5minとする。

(5) 単価表

被けん引式スクレーパ掘削 (プッシャを使用しない場合) 1時間 (Qm3) 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
被けん引式スクレーパ運転	12m3級、17m3級	時間	1.0	
計				

被けん引式スクレーパ掘削 (プッシャを使用する場合) 1時間 (Qm3) 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
被けん引式スクレーパ運転	12m3級、17m3級	時間	1.0	
ブルドーザ (プッシャ用)	排出ガス対策型 (第1次基準値) 21t級 排出ガス対策型 (第1次基準値) 32t級	時間	1×1.5/Cmp	
計				

Cmp : プッシャを使用する場合のサイクルタイム

機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
被けん引式スクレーパ	21t級、容量12m3	機-3	
	32t級、容量17m3	機-3	
ブルドーザ (プッシャ用)	排出ガス対策型 (第1次基準値) 21t級	機-3	
	排出ガス対策型 (第1次基準値) 32t級	機-3	

(注) 被けん引式スクレーパのけん引トラクタの運転時間は、被けん引式スクレーパの運転時間とする。

(6) 施工単価入力基準表

農地造成工（被けん引式スクレーパ掘削）

コード	WN011002	施工単位	m3
施工区分	入力条件		
各種	J 1 ブッシャ使用		J 2 被けん引式スクレーパ
	① 使用しない ② 使用する		① 12m3級 ② 17m3級
J 3 土質名		J 4 作業条件	J 5 土量換算係数
① 砂質土 ② 礫質土 ③ 粘性土		① 良好 ② 普通 ③ 不良	実数入力(無)
J 6 運土距離(5mの整数倍)			
実数入力(m)			

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

4 ケンブリッジローラ鎮圧 (WN011017)

(1) 適用範囲

本歩掛は、農用地造成工事のケンブリッジローラによる鎮圧作業に適用する。

(2) 施工概要

種床造成の最終段階において、ほ場面に残る土塊及び膨軟化している表土の整地を兼ね、整一な種床を造るとともに、毛管水伝達度を高めて牧草種子の着床と発芽を良くするため、また、傾斜地では土壤保全を目的に行う。一般的には火山灰性軽しょう土、排水改良後の泥炭質土、植生土壌で使用される。

(3) 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表(3).1 機種を選定

機 種	規 格
トラクタ	湿地10t
ケンブリッジローラ (けん引式)	作業幅 2.7m級

(4) 施工歩掛

ケンブリッジローラによる鎮圧の1日当りの施工量は、次によって求める。

$$QD = q \times E$$

QD : 1日当り施工量 (ha/日)、(小数点以下2位四捨五入小数1位止)

q : 基準日施工能力 (ha/日)

E : 作業効率

(4) - 1 基準日施工能力 (q)

$$q = (0.0070 \times a + 0.0027 \times b + 1.487) \times N$$

a : ほ場の短辺の長さ (m)

b : ほ場の長辺の長さ (m)

N : 鎮圧回数比率

鎮圧1回掛の場合 1.25

鎮圧2回掛の場合 1.00

(注) 鎮圧回数は1回を標準とするが、1回掛ではムラがでたり、1回掛では鎮圧ができない場合2回掛とする。

(4) - 2 作業効率 (E)

$$E = E_1 \times E_2$$

E₁ : 土質係数

E₂ : 傾斜係数

(4) - 2 - 1 土質係数 (E₁)

表(4).1 土質係数

土質名	砂質土	粘性土
E ₁	1.05	1.00

(4) - 2 - 2 土質係数 (E₂)

表(4).2 傾斜係数

傾斜区分	0~4° 未満	4~9° 未満	9~13° 未満
E ₂	1.00	0.85	0.75

(5) 単価表

ケンブリッジローラ鎮圧 1ha当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ケンブリッジローラ運転	作業幅2.7m	日	1.0/QD	表(4).1、表(4).2
計				

(注) QD : 1日当り施工量 (ha/日)

機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ケンブリッジローラ	作業幅2.7m	機一20	(トラクタ湿地10t) 運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 65 機械損料数量1 → 1.94 (ケンブリッジローラ作業幅2.7m) 機械損料数量2 → 2.44

(6) 施工単価入力基準表

鎮圧工 (ケンブリッジローラ)

コード	WN011017	施工単位	ha
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 ほ場の短辺の長さ 実数入力(m)		J 2 ほ場の長辺の長さ 実数入力(m)
	J 3 鎮圧回数 ① 鎮圧1回掛 ② 鎮圧2回掛	J 4 土質名 ① 砂質土 ② 粘性土	J 5 傾斜区分 ① 0~4° 未満 ② 4~9° 未満 ③ 9~13° 未満

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

5 ブラッシュブレイカ耕起

(1) 適用範囲

本歩掛は、農用地造成工事のブラッシュブレイカによる耕起作業に適用する。
なお、ブラッシュブレイカ耕起による耕起深は15～25cmである。

(2) 施工の概要

耕起は、抜根・排根後におけるほ場面の表層部分を反転、破碎、攪拌する、又は下層土と混合して地表の雑物をすき込み、あるいは深耕、混層耕などにより、その後の碎土と併せて耕作する作土をつくる目的で行う。

(3) 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

作 業	機 械 名	規 格
ブラッシュブレイカ耕起	トラクタ	湿地10t
	ブラッシュブレイカ (直装式)	20～22インチ×2連

(4) 施工歩掛

ブラッシュブレイカ耕起の1ha当り運転時間は、次表を標準とする。

表4.1 1ha当り運転時間

土 質	運転時間 (hr/ha)
砂 質 土	2.30
粘 性 土	3.64

(4) - 1 運転労務・運転時間

(4) - 1 - 1 トラクタの運転労務は、別途計上する。

(4) - 1 - 2 ブラッシュブレイカ (けん引式) の1日当り運転時間 (T) = 5.5時間とする。

(5) 単価表

(1) ブラッシュブレイカ耕起 1ha当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ブラッシュブレイカ運転	20～22インチ×2連	h	Th	表4.1
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブラッシュブレイカ	20～22インチ×2連	機-3	機械損料1→トラクタ湿地10t
			機械損料2→ブラッシュブレイカ直装式20～22×2連

(6) 施工単価入力基準表

耕起 (ブラッシュブレイカ)

コード	WN011008	施工単位	ha
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	土質名		
	① 砂質土 ② 粘性土		

■単価登録：なし ■諸雑費 (まるめ)

6 ディスクハロー砕土

(1) 適用範囲

本歩掛は、農用地造成工事のディスクハローによる砕土作業に適用する。

(2) 施工概要

砕土は、耕起した土を細かく砕き表層部を均平にして耕作に適するは種床を造成する目的で行われる。山成畑工における砕土には、一般的にディスクハローが使用される。

(3) 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

作 業	機 械 名	規 格
ディスクハロー砕土	トラクタ	普通9t 湿地10t
	ディスクハロー (けん引式)	オフセット24×24枚

(注) トラクタの規格選定にあたっては現場条件によりいずれかを選択する。

(4) 施工歩掛

ディスクハロー（けん引式）による砕土の1日当り施工量は、次の算定式によって求める。

$$QD = q \times E$$

QD：1日当り施工量 (ha/日)、(小数点以下第2位四捨五入小数点第1位止)

q：基準日施工能力 (ha/日)

E：作業効率

4-1 基準日施工能力 (q)

$$q = (0.00068 \times b + 2.097) \times N$$

b：ほ場の長辺の長さ (m)

N：掛回数比率

1回掛の場合 1.70

2回掛の場合 1.00

3回掛の場合 0.60

4-2 作業効率 (E)

$$E = E_1 \times E_2$$

E₁：土質係数

E₂：作業係数

4-2-1 土質係数 (E₁)

表4.1 土質係数

土質名	砂質土	粘性土
土質係数	1.00	0.95

4-2-2 作業係数 (E₂)

表4.2 作業係数

作 業 条 件	作業係数
プラウイングハロー、ロータリ(直装式)による耕起跡地	0.90
ブラッシュブレーカ、リップドーザによる耕起跡地	1.00

(5) 単価表

(1) ディスクハロー砕土 1ha当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ディスクハロー運転	けん引式 オフセット24×24枚	日	1.0/QD	表4. 1、表4. 2
計				

(注) QD: 1日当り施工量 (ha/日)

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ディスクハロー	けん引式 オフセット24×24枚	機-20	(トラクタ普通9t又は湿地10t) 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →74 機械損料数量1 →1.94 (ディスクハローけん引式オフセット24×24枚) 機械損料数量2 →2.11

(6) 施工単価入力基準表

砕土 (ディスクハロー)

コード	WN011012	施工単位	ha
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 ほ場長辺の長さ 実数入力(m)		J 2 掛回数 ① 1回掛 ② 2回掛 ③ 3回掛
	J 3 土質名 ① 砂質土 ② 粘性土	J 4 作業条件 ① プラウイングハロー、ローリ(直装式)による耕起跡地 ② ブラッシュブレーカ、リップローザによる耕起跡地	J 5 トラクタ選択 ① 普通9t ② 湿地10t

■単価登録: なし ■諸雑費 (まるめ)

ディスクハロー運転

コード	WP995420	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 トラクタ選択		J 2 電力使用量 実数入力(Kwh)
	① 普通9t ② 湿地10t		

※ディスクハロー運転 WP995420 の J2 条件において、電力使用が無い場合は入力値を「0」とする。

■単価登録: 電力料 (Y7500000)

7 土壤改良資材散布（ライムソワー）（WN011010）

(1) 適用範囲

本歩掛は、農用地造成工事において、ほ場の一辺に集積されている土壤改良材をライムソワーによって散布する作業に適用する。

(2) 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表2.1 機種を選定

機 械 名	規 格
ト ラ ク タ	普通 9t 湿地 10t
ラ イ ム ソ ワ ー (け ん 引 式)	積載容量 800ℓ、 作業幅 3.0m級

(注) トラクタの規格選定にあたっては現場条件によりいずれかを選択する。

(3) 施工歩掛

ライムソワーによる土壤改良資材散布の1ha 当り運転時間は、次の算定式によって求める。

$$Th = th \times E$$

Th : 1ha 当り運転時間 (hr/ha) 、(小数点以下第2位四捨五入小数第1位止)

th : 1ha 当り基準運転時間 (hr/ha)

E : 作業効率

(3) - 1 基準運転時間 (th)

$$th = 0.65 + \frac{5.75}{b} + \frac{44.0}{a \times b} + \left[\frac{\sqrt{a^2 + b^2}}{4300.0} + 0.13 \right] \times G$$

a : ほ場の短辺の長さ (m)

b : ほ場の長辺の長さ (m)

G : 土壤改良資材の1ha 当り散布量 (t/ha)

(3) - 2 作業効率 (E)

$$E = E_1 \times E_2 \times E_3$$

E₁ : 土質係数

E₂ : 傾斜係数

E₃ : 作業係数

(3) - 2 - 1 土質係数 (E₁)

表3.1 土質係数

土質名	砂	砂質土	粘性土
土 湿			
乾 燥	0.90	1.00	1.10
湿 潤	1.10	1.15	1.25

(3) - 2 - 2 傾斜係数 (E₂)

表3.2 傾斜係数

傾斜区分	0～4° 未満	4～9° 未満	9～13° 未満	13～15°
E ₂	1.00	1.10	1.20	1.30

(3) - 2 - 3 作業係数 (E₃)

表3.3 作業係数

作業条件	良 好	普 通	不 良
E ₃	0.75	1.10	1.40

(注) 1. 作業係数は、ほ場面の形状（起伏の有無、区画の凹凸等）、資材積込みの難易、ほ場の分散の程度、その他の制約条件等により判定する。

2. 軟弱地盤等の施工において、ライムソウのホイールの回転がスムーズに行われ難い場合には、均一な散布が困難となるので、注意しなければならない。

(3) - 3 材料の補正係数

材料の補正係数は、次表を標準とする。

表3.4 補正係数

材 料	補 正 係 数
土 壤 改 良 材	+0.02

(3) - 4 1 ha 当り土壌改良資材積込等労務

表3.5 積込等労務 (人/ha)

職 種	数 量
世 話 役	0.18×Th
普 通 作 業 員	0.70×Th

(注) この歩掛は土壌改良材がほ場の一辺に集積されている場合での歩掛である。

(3) - 5 運転労務・運転時間

(3) - 5 - 1 トラクタの運転労務は別途計上する。

(3) - 5 - 2 ライムソウ（けん引式）の1日当り運転時間（T）=5.7時間とする。

(4) 単価表

(1) 土壌改良材散布（ライムソウ）1 ha 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 壤 改 良 材		t	G×(1+0.02)	表 3.4
ライムソウ運転	積載容量 800ℓ、 作業幅 3.0m級	h	Th	表 3.1～表 3.3
世 話 役		人		表 3.5
普 通 作 業 員		〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ラ イ ム ソ ウ	積載容量 800ℓ、 作業幅 3.0m級	機-3	機械損料1→トラクタ普通9t 又は湿地 10t
			機械損料2→ライムソウ 積載容量 800ℓ、作業幅 3.0m級

(5) 施工単価入力基準表

土壤改良材機械散布

コード	WN011010	施工単位	ha
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 土壤改良資材散布の1ha当り運転時間 実数入力(hr/ha)		J 2 土壤改良資材の1ha当り散布量 実数入力(t/ha)
	J 3 トラクタ規格 ① 普通9t ② 湿地10t	J 4 土湿 ① 乾燥 ② 湿潤	J 5 土質名 ① 砂 ② 砂質土 ③ 粘性土
	J 6 傾斜区分 ① 0～4° 未満 ② 4～9° 未満 ③ 9～13° 未満 ④ 13～15°	J 7 作業条件 ① 良好 ② 普通 ③ 不良	

■単価登録：土壤改良材 (Y1513006)

■諸雑費 (まるめ)

8 プラウイングハロー耕起 (WN011009)

(1) 適用範囲

本歩掛は、農用地造成工事のプラウイングハローによる耕起作業に適用する。
 なお、プラウイングハロー耕起による耕起深は 12～25cm である。

(2) 施工概要

耕起は抜根・排根後におけるほ場面の表層部分を反転、破碎、攪拌する、又は下層土と混合して地表の雑物をすき込み、あるいは深耕、混層耕などにより、その後の砕土と併せて耕作する作土をつくる目的で行う。

(3) 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

作業	機械名	規格
プラウイングハロー耕起	トラクタ	普通 15 t 湿地 16 t
	プラウイングハロー (けん引式)	28×20 枚

(注) トラクタの規格選定にあたっては、現場条件によりいずれかを選択する。

(4) 施工歩掛

プラウイングハロー（重ディスクハロー）の 1 ha 当り運転時間は、次の算定式によって求める。

$$Th = th \times E$$

Th : 1 ha 当り運転時間 (hr/ha) 、(小数点以下 2 位四捨五入小数第 1 位止)

th : 基準運転時間 (hr/ha)

E : 作業効率

(4) - 1 基準運転時間 (th)

$$th = \left[\frac{0.92 + 45.0 \times \frac{1}{b}}{1} + \frac{3390.0 \times \frac{1}{a \times b}}{1} \right] \times N$$

a : ほ場の短辺の長さ (m)

b : ほ場の長辺の長さ (m)

N : 回数掛比率

1 回掛の場合 1.00

2 回掛の場合 1.95

(4) - 2 作業効率 (E)

$$E = E_1 \times E_2 \times E_3$$

E₁ : 土質係数

E₂ : 傾斜係数

E₃ : 作業係数

(4) - 2 - 1 土質係数 (E₁)

表4. 1 土質係数

土質名	砂	砂質土	粘性土
土 湿			
乾 燥	0.95	1.00	1.05
湿 潤	1.05	1.15	1.20

(4) - 2 - 2 傾斜係数 (E₂)

表4. 2 傾斜係数

傾斜区分	0～4° 未満	4～9° 未満	9～13° 未満	13～15°
E ₂	1.0	1.1	1.3	1.5

(4) - 2 - 3 作業係数 (E₃)

表4. 3 作業係数

区分	E ₃	作業条件
良好	1.00	整地済地、裸地、雑草地、小笹疎生地で地表、地下に石礫、残根、埋木等の作業障害物がなく、走行に支障となる小起伏が少ない地帯等作業が順調に行われる地帯
普通	1.20	小笹中密生地、くま笹疎中生地で作業深内に障害物が存在しない地帯、整地済地、裸地、雑草地、小笹疎生地で作業深内に障害物が多少存在する地帯、走行に支障となる小起伏が多少ある地帯等作業が普通に行われる地帯
不良	1.40	根曲り竹地、くま笹密生地及び作業深内に障害物がかなり存在する地帯、走行に著しく支障となる起伏がある地帯、軟弱地盤で作業機のめり込みが懸念される地帯等作業がかなり困難な地帯

(注) 植生区分は次による。

表4. 4 植生区分 (本/m²)

植生区分	疎 生	中 生	密 生
小 笹	50~150 未満	150~250 未満	250以上
く ま 笹 (笹丈 1 m以上)	75 "	75~150 "	150 "
根 曲 り 竹	50 "	50~100 "	100 "

(注) 1. 火入済地帯及び刈払い地帯は1ランク上位の区分を使用することができる。
2. 石礫と作業条件は次による。

表4. 5 石礫と作業条件

含礫量(容積)	3~4%	5~10%	11%以上
作業条件	普 通	やや不良	不 良

(4) - 3 運転労務・運転時間

(4) - 3 - 1 トラクタの運転労務は別途計上する。

(4) - 3 - 2 ブラウイングハロー (重ディスクハロー) の1日当り運転時間 (T) = 6.0 時間とする。

(5) 単価表

(1) ブラウイングハロー耕起 1 ha 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ブラウイングハロー運転	28×20 枚	h	Th	表 4. 1~表 4. 3
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブラウイングハロー	28×20 枚	機-3	機械損料 1 → トラクタ普通 15 t 又は湿地 16 t
			機械損料 2 → ブラウイングハロー 28×20 枚

(6) 施工単価入力基準表

耕起 (プラウイングハロー)

コード	WN011009	施工単位	ha
施工区分	入力条件		
各種	J 1 ほ場短辺の長さ 実数入力(m)		J 2 ほ場長辺の長さ 実数入力(m)
	J 3 回数掛	J 4 土湿	J 5 土質名
① 1回掛 ② 2回掛	① 乾燥 ② 湿潤	① 砂 ② 砂質土 ③ 粘性土	
J 6 傾斜区分	J 7 作業区分	J 8 トラクタ規格	
① 0~4° 未満 ② 4~9° 未満 ③ 9~13° 未満 ④ 13~15°	① 良好 ② 普通 ③ 不良	① 普通15t ② 湿地16t	

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

⑥ 管水路

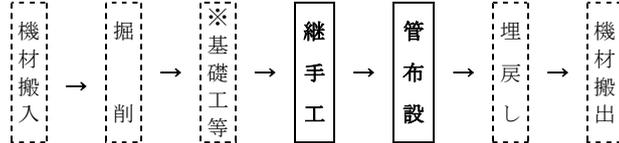
1 高密度ポリエチレン管布設(WN910380、WN910390、WN910400、WN910410)

(1) 適用範囲

本歩掛は、管水路工における高密度ポリエチレン管の布設及び溶着タイプの継手工(バット溶着及びEF継手工)作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 なお、※は必要に応じて計上するが、基礎工とは、基面整正・基礎法面整形等をいう。

(3) 施工歩掛

施工歩掛は次表を標準とする。

① バット溶着工法

表(3) . 1 バット溶着工法布設及び継手工(N1)

名 称	布設工 (10m当り) 特殊作業員	溶着工(1箇所当り)			摘 要
		特殊作業員	普通作業員	諸雑费率	
φ75mm迄	0.02	0.03	0.03	労務費の 40%	
φ100mm	0.03	0.03	0.06		
φ150mm	0.06	0.04	0.07		
φ200mm	0.12	0.04	0.09		

- (注) 1. 指定以外の単位は全て人である。
 2. 本歩掛は、メカニカル継手には適用できない。
 3. 諸雑費は、溶接接合に要する機械損料費であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

② EF継手工法

表(3) . 2 EF継手工法布設及び継手工(N2)

名 称	布設工(10m当り)			継手工(1箇所当り)		
	配管工	普通作業員	0.45バックホ	配管工	普通作業員	諸雑费率
φ75mm迄	0.02	0.04	—	0.04	0.04	労務費の 30%
φ100mm	0.02	0.04	—	0.06	0.06	
φ150mm	0.03	0.06	—	0.07	0.07	
φ200mm	0.04	0.08	0.32hr	0.07	0.07	

- (注) 1. 指定以外の単位は全て人である。
 2. バックホウは山積0.45m³、2.9t吊りクレーン仕様である。
 3. 本歩掛は、メカニカル継手には適用できない。
 4. 諸雑費は、溶接接合に要する機械損料費であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4) 単価表

表(4) . 1 高密度ポリエチレン管溶着工 1カ所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特殊作業員		人		表(3) . 1
普通作業員		人		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

表(4). 2 高密度ポリエチレン管継手工 1カ所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
配 管 工		人		表(3). 2
普通作業員		人		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

表(4). 3 高密度ポリエチレン管布設(溶着工法) 10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特殊作業員		人	N1	表(3). 1
計				

備考 N1: 10m当り歩掛

表(4). 4 高密度ポリエチレン管布設(継手工法) 10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
配 管 工		人	N2	表(3). 2
普通作業員		人	〃	〃
バックホウ		時間	〃	〃
計				

備考 N2: 10m当り歩掛

(5). 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ポリエチレン管布設(継手工法)	排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.45 m級 2.9t 吊り	機-1	

(6) 施工単価入力基準表

高密度ポリエチレン管溶着工

コード	WN910380	施工単位	箇所
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	管・種類		
	① φ75mm迄		
	② φ100mm		
	③ φ150mm		
	④ φ200mm		

(注)1. 単価には諸雑費率40%を含んでいる。

■単価登録: なし ■諸雑費(率+まるめ)

高密度ポリエチレン管継手工

コード	WN910390	施工単位	箇所
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	管・種類		
	① φ75mm迄		
	② φ100mm		
	③ φ150mm		
	④ φ200mm		

(注)1. 単価には諸雑費率30%を含んでいる。

■単価登録: なし ■諸雑費(率+まるめ)

高密度ポリエチレン管布設（溶着工法）

コード	WN910400	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	管・種類		
	①	φ 75mm迄	
	②	φ 100mm	
	③	φ 150mm	
	④	φ 200mm	

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

高密度ポリエチレン管布設（継手工法）

コード	WN910410	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	管・種類		
	①	φ 75mm迄	
	②	φ 100mm	
	③	φ 150mm	
	④	φ 200mm	

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

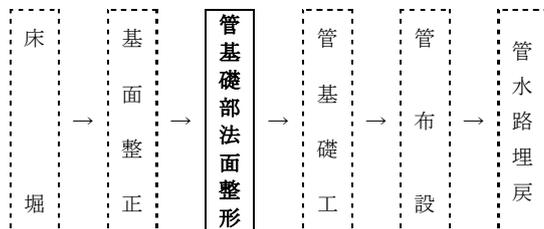
2 用水管路基礎法面整形 (WN910420)

(1) 適用範囲

本歩掛は、専用バケットによる管路工の基礎部分に係る法面整形作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工機種

施工機種は次表を標準とする。

表(3).1 施工機種

機 械 名	規 格	摘 要
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値、専用バケット装着) 油圧式クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	

(4) 施工歩掛

施工歩掛は次表を標準とする。

表(4).1 用水管路基礎法面整形 (N)

(100m²当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ	表(3).1	hr	1.85	
普通作業員		人	0.24	補助労務

(5) 単価表

表(5).1 用水管路基礎法面整形 100m²当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ	油圧クローラ山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	時間	N	表(4).1
普通作業員		人	〃	〃
計				

備考 N: 100m²当り歩掛

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	油圧式クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	機-1	

(7) 施工単価入力基準表

用水管路基礎法面整形

コード	WN910420	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	な し		

■単価登録: なし ■諸雑費 (まるめ)

3 管水路基礎工（管水路撤出し・敷均し・締固め工）（WN900080、WN900090）

(1) 適用範囲

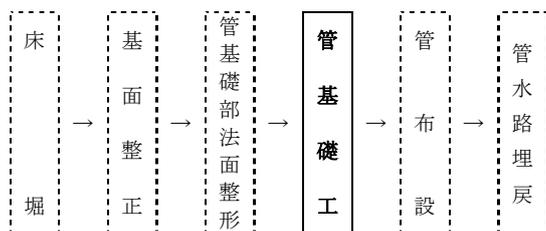
本歩掛は、管水路工事の基礎工における、プロクター密度、区分Ⅰ・Ⅱに対応する基礎材（基床部・管側部）の機械による撤出し・敷均し・締固めの一連作業に適用する。ただし、基礎材（基床部及び管側部）の敷均しは人力施工とする。なお、締固め区分は下記のとおりである。

また、名称については、新土木工事積算システムの基礎材〔基床部〕〔管側部〕を示すものである。

- ・締固Ⅰ……プロクター密度85%以上
- ・締固Ⅱ……プロクター密度90%以上

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工機種

使用機械は、次表を標準とする。

表(3)．1 使用機械の機種選定

区 分		機 械 名	規 格
撤出し	基礎材〔基床部〕	バックホウ	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)
	基礎材〔管側部〕		
締固め	基礎材〔基床部〕	タンパ	60～80kg
		振動ローラ	ハンドガイド式0.5～0.6t
	基礎材〔管側部〕	タンパ	60～80kg
		振動ローラ	ハンドガイド式0.5～0.6t

(4) 施工歩掛

管水路基礎工（撤出し、敷均し、締固め）の歩掛は、次表を標準とする。

表(4)．1 管水路基礎工（撤出し、敷均し、締固め）歩掛

(100 m³当たり)

名 称	規 格	単 位	締 固 Ⅰ				締 固 Ⅱ			
			基礎材〔基床部〕		基礎材〔管側部〕		基礎材〔基床部〕		基礎材〔管側部〕	
締固め機械別			振動 ローラ	タンパ ランマ	振動 ローラ	タンパ ランマ	振動 ローラ	タンパ ランマ	振動 ローラ	タンパ ランマ
世話役		人	0.70	0.76	0.64	0.53	0.77	0.99	0.70	0.69
普通作業員		〃	1.75		0.94		1.93	2.10	1.03	1.13
バックホウ運転	山積0.8m ³	h	3.91		2.91		3.91		2.91	
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.5～0.6t	日	1.44	—	0.80	—	2.45	—	1.36	—
タンパ及びランマ運転	60～80kg	〃	—	2.45	—	2.04	—	3.92	—	3.26
諸雑费率		%	0.1		0.2		0.1		0.2	

備考 1. 諸雑費は、スコープ・ハンゴ等の費用であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 振動ローラは賃料とする。

(5) 単価表

表(5).1 単-1 管水路基礎工 100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人	N	表(4).1
普通作業員		〃	N	表(4).1
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	h	N	表(4).1
振動ローラ運転	ハンドガイド式0.5~0.6t	日	N	表(4).1 振動ローラ使用の場合
タンパ運転	60~80kg	〃	N	表(4).1 タンパ使用の場合
諸雑費		式	1	表3.1
計				

備考 N:歩掛

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	単 位	指 定 事 項
バックホウ	損料 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	機-1	h	
振動ローラ	賃料 ハンドガイド式0.5~0.6t	機-31	日	運転労務数量 1.00 燃料消費量 2.2 機械賃料数量 1.71
タンパ	損料 60~80kg	機-8	〃	燃料消費量 4.4

(注) 機械選定表(締固め作業)

機 種	規 格	適 用
振動ローラ	ハンドガイド式 0.5~0.6t	W \geq 1.0m
タンパ	60kg~80kg	W<1.0m

(7) 施工単価入力基準表

基礎材(基床部)

コード	WN900080	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 締固め区分		J 2 締固め機械
	① 締固めI ② 締固めII	① W \geq 1.0m バックホウ+振動ローラ ② W<1.0m バックホウ+タンパ	

(注)1. 単価には諸雑费率0.1%を含んでいる。

■単価登録:なし ■諸雑費(率+まるめ)

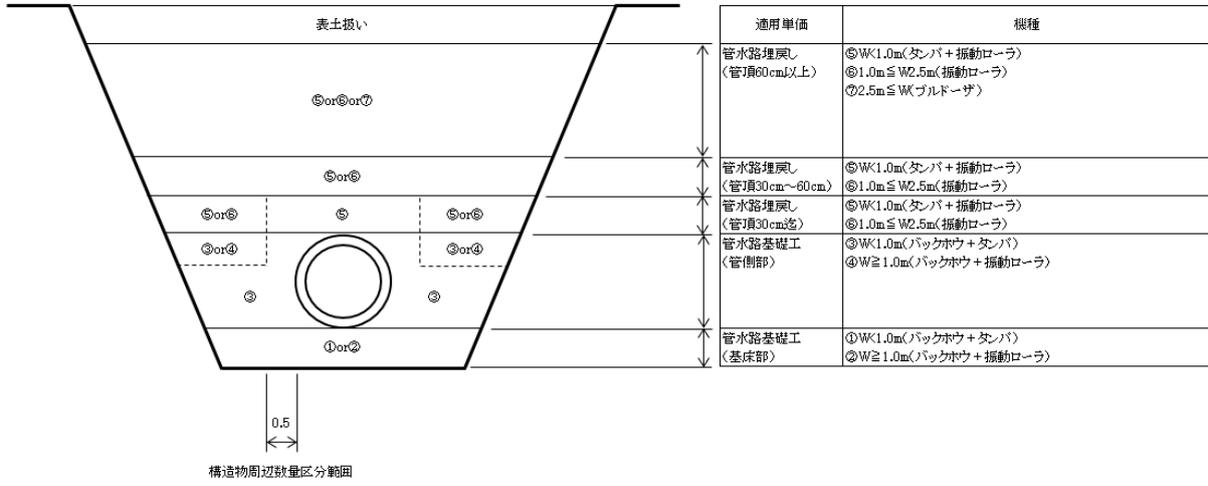
基礎材(管側部)

コード	WN900090	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 締固め区分		J 2 締固め機械
	① 締固めI ② 締固めII	① W \geq 1.0m バックホウ+振動ローラ ② W<1.0m バックホウ+タンパ	

(注)1. 単価には諸雑费率0.2%を含んでいる。

■単価登録:なし ■諸雑費(率+まるめ)

管水路工埋戻し区分



4 管水路埋戻し (WN900100)

(1) 適用範囲

本歩掛は、管水路の施工における、地山程度に締固める機械による撒出し・敷均し・締固めの一連作業で、管頂以上又は締固め区分Ⅰ、Ⅱを要さない管水路の埋戻し（地山程度）に適用する。

また、名称については、新土木工事積算システムの埋戻材〔管頂以上〕を示すものである。

(2) 使用機械

使用機械は、次表を標準とする。

表(2) . 1 使用機械の機種選定

区 分		機 械 名	規 格
撒出し	埋戻し(1.0m \leq W<2.5m)	バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値)
	埋戻し(2.5m \leq W)		クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)
敷均し	埋戻し(2.5m \leq W)	ブルドーザ	排出ガス対策型普通3t
締固め	埋戻し(1.0m \leq W<2.5m)	振動ローラ	ハンドガイド式0.5~0.6t
	埋戻し(2.5m \leq W)	ブルドーザ	排出ガス対策型普通3t

備考 1. 締固めを振動ローラで行う場合の敷均しは人力施工とする。

(3) 施工歩掛

1) 管水路埋戻し (W<1.0m)

管水路埋戻し (W<1.0m) 歩掛は、次表を標準とする。

表(3) . 1 単一 管水路埋戻し(埋戻し、締固め) (100 m³当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量
バックホウ(クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)・山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	日	0.83
タンバ(ランマ)	60~80kg	〃	0.80
振動ローラ	ハンドガイド式0.5~0.6t	〃	0.70

備考 1. バックホウは、掘削時に片揚げした土の埋戻しに適用する。

2. タンバ(ランマ)及び振動ローラの1層の締固め厚さは、30cmを標準とする。

2) 管水路埋戻し (1.0m \leq W<2.5m、2.5m \leq W)

管水路埋戻し (1.0m \leq W<2.5m、2.5m \leq W) 歩掛は、次表を標準とする。

表(3) . 2 管水路埋戻し(撒出し、敷均し、締固め)歩掛 (100 m³当たり)

名 称	規 格	単 位	埋戻し(管頂以上)		摘 要
			振動ローラ 1.0m \leq W<2.5m	ブルドーザ 2.5m \leq W	
締固め機械別					
世話役		人	0.33	0.24	
普通作業員		〃	0.64	—	
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	1.83		
振動ローラ運転	ハンドガイド式0.5~0.6t	日	0.68	—	
ブルドーザ運転	排出ガス対策型普通3t級	〃	—	0.38	
諸雑費率		%	0.3	—	

備考 1. 諸雑費は、スコープ・ハシゴ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 振動ローラ及びブルドーザは賃料とする。

(4) 単価表

表(4) . 1 単-1 管水路埋戻し (W<1.0m) 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ (クロー型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) ・山積 0.45m ³ (平積0.35m ³)	日		表(3) .1
タンバ (ランマ)	60~80kg	〃	0.80	表(3) .1
振動ローラ	ハンドガイド式 0.5~0.6t	〃	0.70	表(3) .1

表(4) . 2 単-2 管水路埋戻し (1.0m≦W2.5m、2.5m≦W) 100m³ 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人	N	表(3) .2
普通作業員		〃	N	表(3) .2
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クロー型・山積0.8 m ³ (平積0.6 m ³)	h	N	表(3) .2
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.5~0.6 t	日	N	表(3) .2 振動ローラ使用の場合
ブルドーザ運転	排出ガス対策型普通3 t級	〃	N	表(3) .2 ブルドーザ使用の場合
諸雑費		式	1	表(3) .2
計				

備考 N : 歩掛

(5) 機械運転単価表

(5) . 1 管水路埋戻し (W<1.0m) 機械運転単価表

名 称	規 格	適用単価表	単 位	指 定 事 項
バックホウ (クロー型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) ・山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機-28	日	運転労務数量 1.00 燃料消費量 41 機械賃料数量 1.12
タンバ (ランマ)	60~80kg	機-31	〃	運転労務数量 1.00 燃料消費量 1.8 機械賃料数量 1.08
振動ローラ	ハンドガイド式 0.5~0.6t	〃	〃	運転労務数量 1.00 燃料消費量 2.2 機械賃料数量 1.13

(5) . 2 管水路埋戻し (1.0m≦W2.5m、2.5m≦W) 機械運転単価表

機 械 名		規 格	適用単価表	単 位	指 定 事 項
バックホウ	損料	排出ガス対策型(第2次基準値) クロー型・山積0.8 m ³ (平積0.6 m ³)	機-1	h	
振動ローラ	賃料	ハンドガイド式 0.5~0.6 t	機-31	日	運転労務数量 1.00 燃料消費量 2.2 機械賃料数量 1.71
ブルドーザ	賃料	排出ガス対策型普通3 t級	機-28	〃	運転労務数量 1.00 燃料消費量 24 機械賃料数量 1.63

(6) 施工単価入力基準表

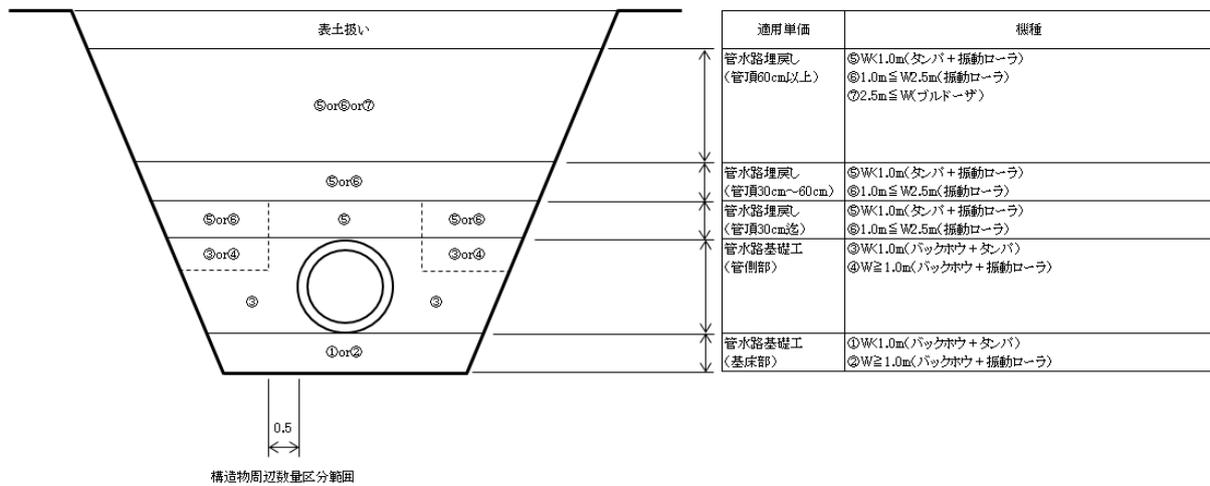
管水路埋戻し

コード	WN900100	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	縮固め機械		
	① W<1.0m タンパ+振動ローラ ② 1.0m≦W<2.5m 振動ローラ ③ 2.5m≦W ブルドーザ(3t級)		

(注) 1. J1②単価には諸雑費率0.3%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費（率+まるめ）

管水路工埋戻し区分



⑦ 附帯作工

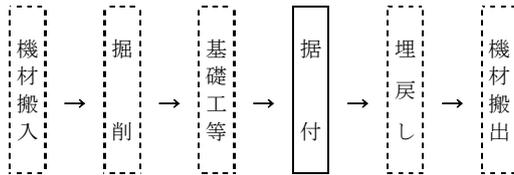
1 長尺コンクリートフリューム据付 (WN910440) (5/1改定)

(1) 適用範囲

本歩掛は、1本の長さが4m以上10m以下で質量が14t以下/個以下コンクリートフリュームの据付に適用するが、歩掛は単純据付であることから、据付に調整が必要なものは適用外とする。
 なお、1本の長さが、5mで7.25t/本、及び4mで5.80t/本以下については、土木工事標準単価による。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 使用機械

使用するクレーンの規格は次表を標準とする。

表(3). 1 使用機械

質量区分	機械名	規格
質量2.5t/本以下	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型4.9t吊
質量2.5t/本を超え4.0t/本以下	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型20t吊
質量4.0t/本を超え8.0t/本以下	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型25t吊
質量8.0t/本を超え14.0t/本以下	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型35t吊

(4) 施工歩掛

施工歩掛は次表を標準とする。

表(4). 1 長尺コンクリートフリューム据付歩掛

(10m当り)

規格	名称	規格	単位	数量	摘要
長さ(m) 4.0 5.0	世話役		人	0.2	表(3). 1
	特殊作業員		人	0.2	
	普通作業員		人	0.6	
	各種クレーン	油圧伸縮ジブ型○t	日	0.2	
8.0以上 10.0以下	世話役		人	0.1	表(3). 1
	特殊作業員		人	0.1	
	普通作業員		人	0.6	
	各種クレーン	油圧伸縮ジブ型○t	日	0.1	

- 備考
1. トラッククレーン及びラフテレーンクレーンの規格は表(3). 1による。
 但し、現場条件により、これによりがたい場合は別途考慮する。
 2. 本歩掛は20m程度までの小運搬を含む据付作業であり、床堀、基礎、埋戻し等は含まない。
 3. 目地材及び支承等据付は別途計上する。
 4. トラッククレーン及びラフテレーンクレーンは賃料とする。
 5. 再使用撤去歩掛は、据付歩掛の50%とする。

(5) 単価表

表(5). 1 長尺コンクリートフリューム据付10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表(4). 1
特殊作業員		//		//
普通作業員		//		//
各種クレーン賃料	油圧伸縮ジブ型○t	日		表(3). 1
計				

(6) 施工単価入力基準表

長尺コンクリートフリューム据付

コード	WN910440	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1 作業区分	J 2 規格・長さ	J 3 使用機械
	① 据付 ② 撤去 ③ 据付・撤去	① 4.0m ② 5.0m ③ 8.0m以上10.0m以下	① トラッククレーン油圧伸縮ジブ型4.9t吊 ② ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型20t吊 ③ ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型25t吊 ④ ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型35t吊

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

2 木製防護柵設置 (WN910450)

(1) 適用範囲

本歩掛は、二次製品の木製防護柵を設置する場合に適用する。

(2) 設置歩掛

木製防護柵の設置歩掛は次表を標準とする。

表(2)．1 木製防護柵設置工歩掛 (1m3当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	1.93	

備考 1. 本歩掛は、木材材積1m3当たりの歩掛である。
2. 床掘、埋戻し、基礎ブロック等は別途計上する。
3. 運搬距離20m程度の現場内小運搬を含む。

(3) 単価表

表(3)．1 木製防護柵設置1m3当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人		表(2)．1
計				

(4) 施工単価入力基準表

木製防護柵設置

コード	WN910450	施工単位	m3
施工区分	入力条件		
各種	なし		

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

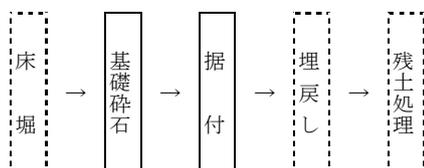
3 コンクリート製品類据付(WN910540)

(1) 適用範囲

本歩掛は、コンクリート樹類（雨水樹、集水樹、分流樹、落口樹等）の据付に適用する。なお、本歩掛はコンクリート樹類のほか、類似するマッシュなコンクリート製品類の据付にも適用する。また、1基当たり質量2,800kg以下の製品類の据付は、施工パッケージ単価のコンクリート分水槽据付を適用すること。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種の選定

使用する機械・規格は次表を標準とする。

表(3)．1 機種の選定

規格区分	機種	規格	摘要
質量2,800kg/基を超え 2,900kg/基以下	バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t吊	
質量2,900kg/基を超え 4,000kg/基以下	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 16t吊	

備考 1. 人力による場合で持上げ高さが2m以上の時は別途考慮する。
2. バックホウ(クレーン機能付)は「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。
3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

(4) 施工歩掛

コンクリート樹類の据付歩掛は、次表を標準とする。

表(4)．1 コンクリート樹類据付歩掛

(10基当たり)

1基当たり質量(kg/基)	労務配置(人)			バックホウ 運転(h)	ラフテレーン クレーン賃料 (日)	基礎砕石 費率(%)	諸雑費 費率(%)	摘要
	世話役	特殊 作業員	普通 作業員					
2,800を超え 2,900以下	1.21	0.78	2.21	6.10	—	18	11	
2,900を超え 4,000以下	1.90	1.90	4.60	—	1.80		2	

備考 1. 歩掛は、据付に伴う材料の小運搬を含むものであり、床掘、埋戻、残土処理は含まない。
2. 使用する機械の規格は表3.1による。
3. 上表歩掛は、蓋板の有無に関わらず適用できる。
4. 基礎砕石費及び諸雑費は、労務費及び機械運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。
なお、基礎砕石費及び諸雑費に含まれる内容は次のとおりである。
〔基礎砕石費〕敷設・転圧労務、材料投入・締固め機械運転経費、砕石等材料費
〔諸雑費〕敷砂または敷モルタル材料費
5. 基礎砕石の敷均し厚は20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途計上する。
6. 基礎砕石費は、材料の種別・規格に関わらず適用できる。

(5) 単価表

表(5).1 単-1 コンクリート製品類据付10基当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	N	表(4).1
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
コンクリート製品類		基	10	別途計上
バックホウ運転 (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	h	N	2,800kg/基を超え 2,900kg/基以下の場合 表3.1、表4.1
ラフテレーンクレーン 賃 料	油圧伸縮ジブ型 16t吊	日	N	2,900kg/基を超え 4,000kg/基以下の場合 表3.1、表4.1
基 礎 砕 石 費		式	1	表(4).1
諸 雑 費		〃	〃	〃
計				

備考 N:歩掛

表(5).2 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	機-1	

(6) 施工単価入力基準表

コンクリート製品類据付

コード	WN910540	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	1基当り質量	基礎材
	① 据付	① 2800kgを超え2900kg以下	① 有り
	② 撤去	② 2900kgを超え4000kg以下	② 無し
	③ 据付・撤去		④ 材料の有無
			① 有り
			② 無し

(注)1. J1条件で①を選択した場合、諸雑費率11%、②を選択した場合、諸雑費率2%が計上される。

2. J2条件で①を選択した場合、基礎砕石費率18%が計上される。

3. 材料費については、施工単価入力基準(Y0800012)により考慮されるため、表(5).1で「別途計上」としているが、別途計上する必要はない。

■単価登録：材料費：コンクリート製品類 (Y0800012) ■諸雑費 (率+まるめ)

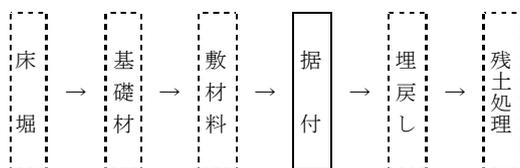
4 大型コンクリート据付 (WN910550)

(1) 適用範囲

本歩掛は、プレキャスト製品によるマンホールを据付ける場合に適用する。なお、本歩掛はマンホールのほか大型集水桝等の大型コンクリートの据付にも適用する。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種の選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表(3)．1 機種の選定

規格区分	機種	規格
質量 4,000kg/基を超え5,000kg/基以下	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 20t吊
質量 5,000kg/基を超えるもの		

(4) 施工歩掛

大型コンクリート据付歩掛は、次表を標準とする。

表(4)．1 大型コンクリート据付歩掛

(1基当り)

1基当り質量 (kg/基)	世話役 (人)	普通作業員 (人)	ラフテレーンクレーン (日)	備考
4,000を超え5,000以下	0.50	1.25	0.61	
5,000を超えるもの	0.61	1.53	0.70	

備考 1. 歩掛は運搬距離30m程度までの小運搬を含む据付歩掛であり、床堀、基礎（敷コンクリート、基礎材）、埋戻しは含まない。
2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。
3. 上記歩掛は蓋板の有無に関わらず適用できる。

(5) 施工単価入力基準表

大型コンクリート据付

コード	WN910550	施工単位	基
施工区分	入力条件		
各種	J1 マンホール1基当り質量		J2 作業区分
	① 4000kgを超え5000kg以下 ② 5000kgを超えるもの	① 据付 ② 撤去 ③ 据付・撤去	J3 材料の有無 ①有り ②無し

J4	J5
ラフテレーンクレーン賃料補正 ① 標準(1.0) ② 標準以外	ラフテレーンクレーン賃料補正 実数入力

(注) 1. J3条件で②を選択した場合、J4条件で賃料補正を入力する。

2. J3条件で②標準以外を選択した場合、J4条件にてH29土木工事標準積算基準書（電気通信編）Ⅷ-3-72の深夜割増計算式にて算出した率を入力する。（少数点以下2位（3位以下四捨五入））

■単価登録：材料費：コンクリート製品類（Y0800012） ■諸雑費（まるめ）

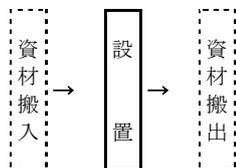
5 量水標設置(WN910520)

(1) 適用範囲

本歩掛は、量水標の設置（樋門付属物設置工）に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工歩掛

量水標（樋門付属物設置工）の施工歩掛は次表を標準とする。

表（3）. 1 量水標設置 (10m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	1.69	
量水標		m	10	
諸雑费率		%	9	

備考 1. 諸雑費はハンマドリル、脚立及び電力に関する費用等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(4) 単価表

表（4）. 1 量水標設置 10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人	N	表（3）. 1
量水標		m	10	
諸雑費		式	1	表（3）. 1
計				

備考 N：歩掛

(5) 施工単価入力基準表

量水標設置

コード	WN910520	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各 種	J 1		J 2
	材料の有無		材料種別
	① 有り		① 平型 直目盛
	② 無し		② 平型 斜目盛
			③ 円型 直目盛
			④ 全面反射シートタイプ 平型 直目盛
			⑤ 各種

(注)1. 単価には諸雑费率9%を含んでいる。

■単価登録：材料費：量水標（Y0800001）

■諸雑費（率＋まるめ）

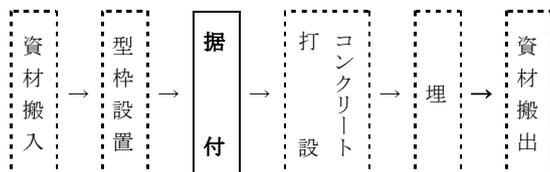
6 はしご設置(WN910530)

(1) 適用範囲

本歩掛は、コンクリート構造物のタラップ・はしご設置に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工歩掛

タラップ・はしご設置の施工歩掛は次表を標準とする。

表(3)．1 はしご設置

(10個当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	0.17	
普通作業員		〃	0.15	
諸雑費率		%	8	

備考 1. 諸雑費は、結束線、電気ドリル及び電力に関する費用等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表(3)．2 適用個数表(2孔当り1個とする。)

タラップ・はしごタイプ	個数	摘要
特1段型、 ゴムライニングタラップ	1 個(2孔)	
2段型、3段型、4段型、5段型、6段型、 A1型、手摺付1段型、特L-1段型	2 個(4孔)	

(4) 単価表

表(4)．1 単-1 はしご設置 10個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	N×D	表(3)．1
普通作業員		〃	〃	〃
諸雑費		式	1	〃
付属物	タラップ、はしご	組	10	
計				

備考 N:10個当り歩掛 D:適用個数

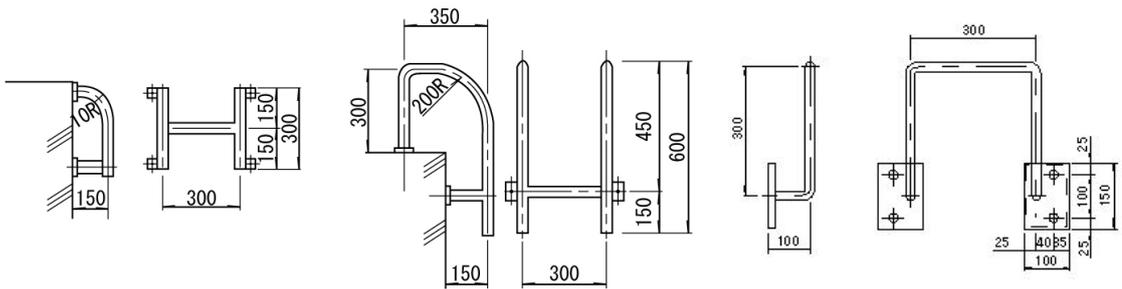
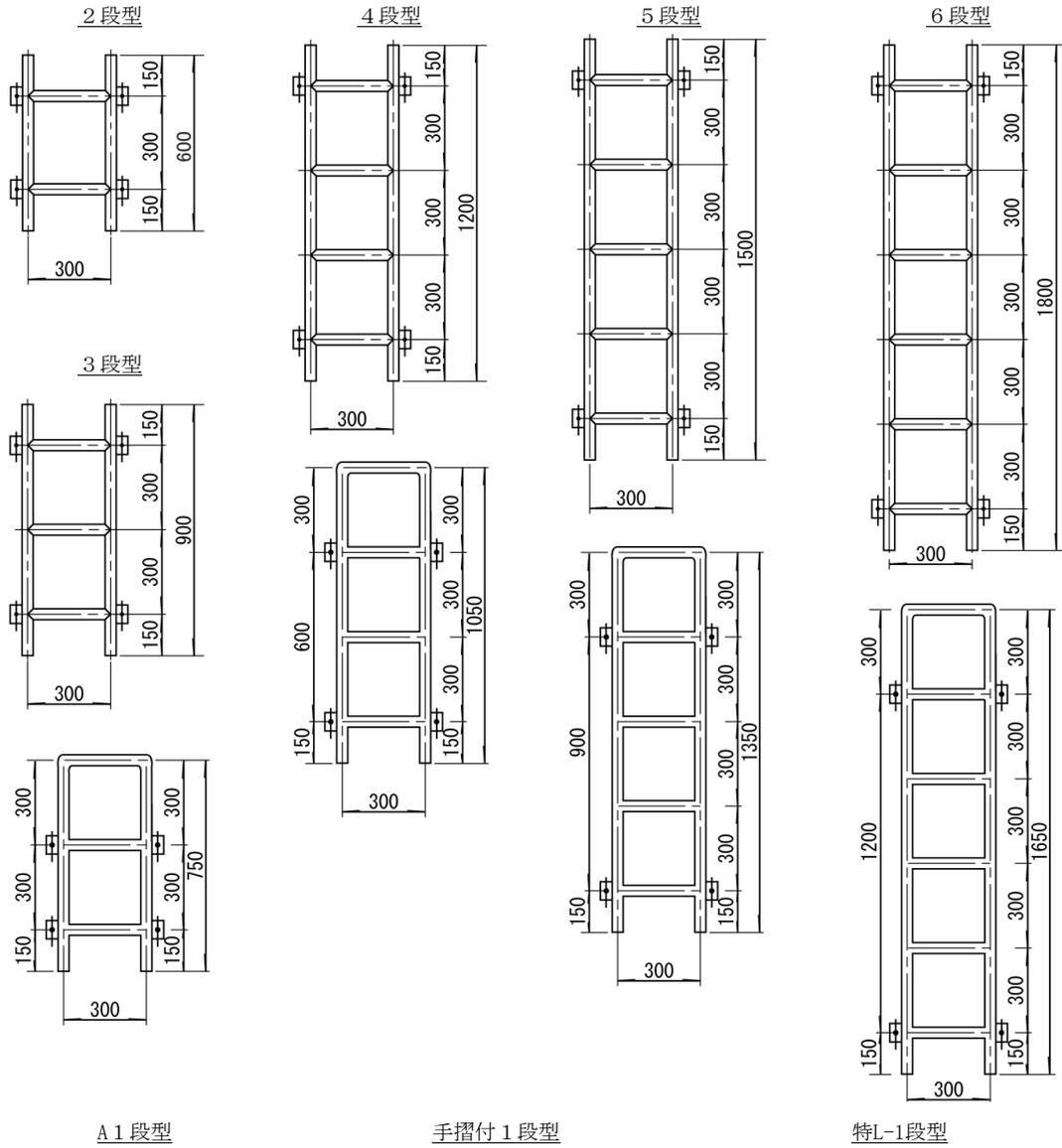
(5) 施工単価入力基準表
 タラップ・はしご設置

コード	WN910530	施工単位	個
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	材料種別		
	①	タラップ 6型 L=900	φ 16
	②	タラップ 7型 L=900	φ 19
	③	はしご 2段型	φ 16
	④	はしご 3段型	φ 16
	⑤	はしご 4段型	φ 16
	⑥	はしご 5段型	φ 16
	⑦	はしご 6段型	φ 16
	⑧	はしご A-1段型	φ 16
	⑨	はしご 特-1段型	φ 16
	⑩	はしご 手摺付-1段型	φ 16
⑪	はしご 特殊 L-1段型		

(注) 1. 単価には諸雑費率8%を含んでいる。

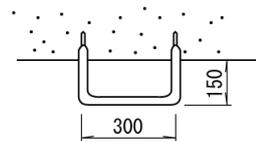
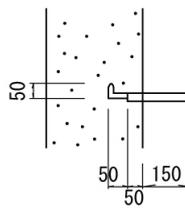
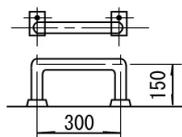
■単価登録：なし ■諸雑費（率+まるめ）

【参考図】



特1段型

ゴムライニングトラップ



7 鉄筋コンクリート管設置 (φ250~1000mm) (WN161930、WN162030)

(1) 適用範囲

本歩掛は、プレキャスト製品による鉄筋コンクリート管（1種管及び2種管）の据付作業に適用する。
適用管径（内径）は、250~1000mmとし、接合方法は、ゴムリングによる接合を標準とする。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(備考) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種の選定

使用する機械の機種、規格は、次表とする。

表3.1 機種の選定 (1種管)

規格区分	据付方法	使用機械	
		機械名	規格
内径φ250mm	人力	—	—
内径φ300~1000mm	機械	バックホウ(クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) クレーン機能付 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³)2.9 t吊

- (備考) 1. 現場条件により、上表により難しい場合は別途考慮する。
2. バックホウ(クレーン機能付)は「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

表3.2 機種の選定 (2種管)

規格区分	据付方法	使用機械	
		機械名	規格
内径φ250~1000mm	機械	バックホウ(クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) クレーン機能付 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³)2.9 t吊

- (備考) 1. 現場条件により、上表により難しい場合は別途考慮する。
2. バックホウ(クレーン機能付)は「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

(4) 施工歩掛

施工歩掛は、次表を標準とする。

表4. 1 鉄筋コンクリート管（1種管）設置歩掛 (10m当り)

管 径 (mm)	管 長 (mm)	土木一般 世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	バックホウ（クローラ型）		諸雑費率 (%)
					運転（h）	規 格	
250	1,000	0.15	0.26	0.32	—	—	7
300		0.07	0.21	0.08	1.18	標準型・排出ガス対 策型 (第1次基準値) クレーン機能付 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³) 2.9t吊	28
350		0.09	0.26	0.10	1.43		23
400		0.10	0.31	0.12	1.68		22
450		0.12	0.37	0.14	1.93		19
500		0.14	0.42	0.17	2.18		18
600	0.17	0.52	0.21	2.68	16		
700	2,000	0.20	0.60	0.24	3.12		14
800		0.23	0.69	0.28	3.59		12
900		0.26	0.78	0.31	4.01		10
1000		0.29	0.87	0.35	4.52		9

- (備考)
1. 本表は小運搬を含む据付作業であり、床掘、基礎、巻きコンクリート、埋戻し、水替等は含まない。
 2. バックホウは損料とする。
 3. 諸雑費はワイヤーロープ、レバーブロック、コンクリートカッタ運転等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。
 4. 再使用撤去歩掛は、設置歩掛の50%とする。
 5. 接合にゴムリングを使用する場合は、上表にその設置費を含む。

表4. 2 鉄筋コンクリート管（2種管）設置歩掛 (10m当り)

管 径 (mm)	管 長 (mm)	土木一般 世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	バックホウ（クローラ型）		諸雑費率 (%)
					運転（h）	規 格	
250	1,000	0.06	0.13	0.07	0.58	標準型・排出ガス対 策型 (第1次基準値) クレーン機能付 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³) 2.9t吊	32
300	2,000	0.08	0.17	0.09	0.85		24
350		0.09	0.19	0.10	0.90		22
400		0.09	0.20	0.11	0.95		20
450		0.10	0.22	0.12	1.00		18
500		0.11	0.23	0.12	1.05		17
600		0.12	0.26	0.14	1.15		15
700		0.14	0.31	0.17	1.36		13
800		0.16	0.35	0.19	1.54		11
900		0.18	0.40	0.22	1.74		10
1000		0.20	0.44	0.24	1.94		9

- (備考)
1. 本表は小運搬を含む据付作業であり、床掘、基礎、巻きコンクリート、埋戻し、水替等は含まない。
 2. バックホウは損料とする。
 3. 諸雑費はワイヤーロープ、レバーブロック、コンクリートカッタ運転等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。
 4. 再使用撤去歩掛は、設置歩掛の50%とする。
 5. 接合にゴムリングを使用する場合は、上表にその設置費を含む。

(5) 単価表

1) 鉄筋コンクリート管 (1種管・2種管) 設置 10m 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 4. 1、表 4. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 管	1 種 管 ・ 2 種 管	m	10	
継 手 用 ゴ ム リ ン グ		個		表 4. 3
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・排出ガス対策型 (第 1 次 基準値) クレーン機能付 山積 0.45 m ³ (平 積 0.35 m ³) 2.9t 吊	h		表 4. 1、表 4. 2
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(6) 継手用ゴムリング

表 4. 3 10m 当り継手用ゴムリング数量表

管種	管径	1 本 当 り 管 長 (mm/本)	継 手 用 ゴ ム リ ン グ 数 量 (個/10m)
1 種 管	φ 250 ~ φ 600	1,000	10
	φ 700 ~ φ 1,000	2,000	5
2 種 管	φ 250	1,000	10
	φ 300 ~ φ 1000	2,000	5

(7) 施工単価入力基準表

鉄筋コンクリート管設置・撤去 (φ250~1000mm)

コード	WN161930 WN162030	施工単位	m	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1 作業区分	J 2 管径	J 3 材料の有無	J 4 ゴムリング数量
	① 設置 ② 撤去	① 内径250mm ② 内径300mm ③ 内径350mm ④ 内径400mm ⑤ 内径450mm ⑥ 内径500mm ⑦ 内径600mm ⑧ 内径700mm ⑨ 内径800mm ⑩ 内径900mm ⑪ 内径1000mm	① 有り ② 無し	実数入力(個/10m)

(注) 1. J1条件で①を選択した場合、J3条件選択可能。

2. J3条件で①を選択した場合、J4条件入力可能

3. J4条件はゴムリング数量 (実数) を入力する。(10m当たり個数)

4. 単価には下記の諸雑費率を含んでいる。

・ WN161930

- ①7%
- ②28%
- ③23%
- ④22%
- ⑤19%
- ⑥18%
- ⑦16%
- ⑧14%
- ⑨12%
- ⑩10%
- ⑪9%

・ WN162030

- ①32%
- ②24%
- ③22%
- ④20%
- ⑤18%
- ⑥17%
- ⑦15%
- ⑧13%
- ⑨11%
- ⑩10%
- ⑪9%

5. 撤去歩掛は布設歩掛の50%とする。

■単価登録：J2条件で①を選択時 鉄筋コンクリート管 (A1115003)、1種ゴムリング (A1430003)

J2条件で②を選択時、鉄筋コンクリート管 (A115020) ほか、2種ゴムリング (A1431003) ほか入力する場合があります。

■諸雑費 (率+まるめ)

8 鉄筋コンクリート管設置 (φ1100~1350mm) (WN162040)

(1) 適用範囲

本歩掛は、プレキャスト製品による鉄筋コンクリート管の据付作業に適用する。

適用管径(内径)は、1100~1350mmとし、接合方法は、ゴムリングによる接合を標準とする。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(備考) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 機種の選定

使用する機械の機種、規格は、次表とする。

表3.1 機種の選定

規格区分	据付方法	使用機械	
		機械名	規格
内径φ1100~1350mm	機械	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊

(備考) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

(4) 施工歩掛

施工歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 鉄筋コンクリート管設置歩掛 (10m当り)

管径 (mm)	土木一般 世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	ラフテレーンクレーン賃料		諸雑費率 (%)
				(日)	規格	
1100	0.47	0.94	1.41	0.47	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	1
1200	0.49	0.98	1.47	0.49		
1350	0.53	1.06	1.59	0.53		

- (備考)
1. 本表は、運搬距離20m程度の現場内小運搬、管の接合据付け作業であり、床掘、基礎、埋戻、水替等は含まない。
 2. 諸雑費は、滑材及びレバーブロック等の費用であり、労務費の合計に上表の諸雑費率を乗じた金額を計上する。ただし、管切断費用及び鉄筋コンクリート管損失費用は含まない。
 3. 再使用撤去歩掛は、設置歩掛の50%とする。
 4. 接合にゴムリングを使用する場合は、上表にその設置費を含む。

(5) 単価表

1) 鉄筋コンクリート管設置 10m 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 4. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 管		m	10	
継 手 用 ゴ ム リ ン グ		個		
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		表 4. 1
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(6) 施工単価入力基準表

鉄筋コンクリート管設置・撤去 (φ1100~1350)

コード	WN162040	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 作業区分	J 2 管種	J 3 管径
	① 設置 ② 撤去	① 1種管 ② 2種管	① 内径1100mm ② 内径1200mm ③ 内径1350mm
			J 4 材料の有無
			① 有り ② 無し

J 5
ゴムリング数量
実数入力(個/10m)

- (注) 1. J1条件で①を選択した場合、J4条件選択可能。
 2. J4条件で①を選択した場合、J5条件入力可能
 3. J5条件はゴムリング数量 (実数) を入力する。(10m当たり個数)
 4. 単価には諸雑費率1%を含んでいる。
 5. 撤去歩掛は布設歩掛の50%とする。

■単価登録：J1条件①、J2条件①、J3条件③の時、鉄筋コンクリート管(A1115016)、加えてJ4条件①の時ゴムリング(A1430016)を入力する場合がある。

J1条件①、J2条件②、J3条件③の時、鉄筋コンクリート管(A1115031)ほか、加えてJ4条件①の時ゴムリング(A1431014)ほかを入力する場合がある。

■諸雑費 (率+まるめ)

9 護岸基礎ブロック(1)(WN322120)

(1) 適用範囲 (新土木工事積算システム名称は、護岸基礎ブロック工(総合)を示す)

本歩掛は、護岸工のプレキャスト基礎ブロック(ブロック長2m、3.3m、5m)のうち、表1.1以外のものに適用する。

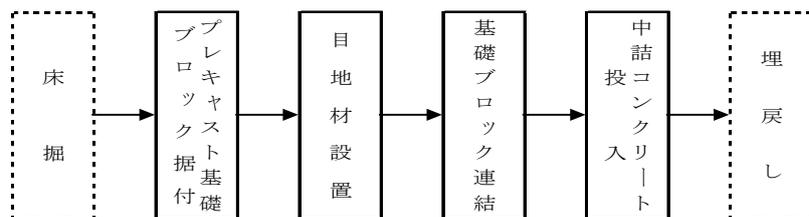
なお、表1.1の護岸基礎ブロックは、護岸基礎ブロック工(2)を適用する。

表1.1 護岸基礎ブロック工(2)の適用範囲

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 中詰作業を行わないもの(ただし連結部分にだけ中詰作業を行うものは含む) ・ 中詰材料にコンクリート以外のものを使ったもの ・ 目地材の施工がされていないもの |
|--|

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(備考) 本歩掛で対応しているのは実線部分である。

(3) 機種の選定

護岸基礎ブロック据付及び中詰コンクリート打設に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	台	1

- (備考)
1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 2. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途機械・規格を考慮する。

(4) 護岸基礎ブロック据付工

4) - 1 護岸基礎ブロック工歩掛

護岸基礎ブロック工の施工歩掛は、次表を標準とする。

表4. 1 護岸基礎ブロック総合歩掛

(10m当り)

ブロック製品長 (mm)			2,000					3,300					5,000				
名称	規格	単位	500 以上6 00 未満	600 以上7 00 未満	700 以上9 00 未満	900 以上 1100 未満	110 0	500 以上6 00 未満	600 以上7 00 未満	700 以上9 00 未満	900 以上 1100 未満	110 0	500 以上6 00 未満	600 以上7 00 未満	700 以上9 00 未満	900 以上 1100 未満	110 0
			世話役		人	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.2	0.3
特殊作業員		〃	0.4	0.4	0.5	0.6	0.7	0.3	0.4	0.4	0.5	0.6	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6
普通作業員		〃	0.4	0.5	0.7	0.9	1.1	0.3	0.4	0.6	0.9	1.0	0.3	0.4	0.6	0.8	0.9
ラフテレーンクレーン運転	25 t 吊	日	0.4	0.4	0.6	0.7	0.8	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.2	0.3	0.4	0.6	0.6
諸雑費率		%	2 (5)	5 (12)	8 (19)	11 (25)	12 (27)	3 (6)	6 (14)	9 (22)	12 (28)	14 (31)	4 (8)	7 (16)	10 (24)	13 (30)	14 (32)

- (備考) 1. 上表の労務歩掛は、ブロックの据付け、連結、目地材設置、中詰コンクリート打設、養生を含むものである。
 2. 中詰コンクリート工はクレーン車打設とする。
 3. 諸雑費は、目地の材料費、パイプレータ、コンクリートバケット損料、電力に関する経費及び養生に要する費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被覆養生程度のものであり、特殊養生を必要とする場合は練炭養生とし、()内の率を使用する。
 5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4) - 2 材料使用量

材料の使用量は、次式による。

$$\text{使用量(m}^3\text{)} = \text{設計量(m}^3\text{)} \times (1 + K) \dots\dots\dots \text{式4. 1}$$

K: ロス率

表4. 2 ロス率 (K)

材 料	ロス率
レディーミクストコンクリート	+0.05

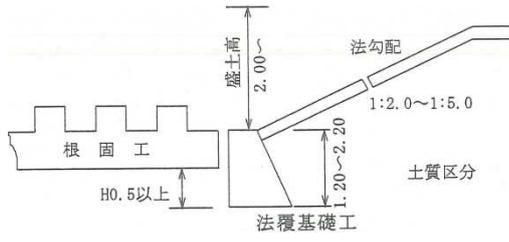
(5) 単価表

表(5) - 1 護岸基礎ブロック工(1)10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人	N	表4. 1
特殊作業員		〃	〃	〃
普通作業員		〃	〃	〃
コンクリート		m ³		式4. 1、別途計上
護岸基礎ブロック		個		別途計上
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型25 t 吊	日	N	表3. 1、表4. 1
諸雑費		式	1	表4. 1
計				

備考 N: 歩掛

【参考図】（河川工事積算要領 護-3）



(6) 施工単価入力基準表
護岸基礎ブロック工 (総合)

コード	WN322120	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1 ブロック製品長	J 2 ブロック下幅	J 3 中詰コンクリート設計量 実数入力 (m ³ /10m)
	① 2000mm ② 3300mm ③ 5000mm	① 500mm以上600mm未満 ② 600mm以上700mm未満 ③ 700mm以上900mm未満 ④ 900mm以上1100mm未満 ⑤ 1100mm	

J 4 生コンクリート規格	J 5 養生の種類	J 6 生コンクリートの夜間割増の有無
① 21-8-25 (20) (普通) ② 24-8-25 (20) (普通) ③ 27-8-25 (20) (普通) ④ 30-8-25 (20) (普通) ⑤ 40-8-25 (20) (普通) ⑥ 18-8-40 (普通) ⑦ 19.5-8-40 (普通) ⑧ 21-8-40 (普通) ⑨ 21-12-40 (普通) ⑩ 22.5-8-40 (普通) ⑪ 24-8-40 (普通) ⑫ 4.5-2.5-40 (普通) ⑬ 21-8-25 (20) (高炉) ⑭ 24-8-25 (20) (高炉) ⑮ 19.5-5-40 (高炉) ⑯ 19.5-8-40 (高炉) ⑰ 18-5-40 (高炉) ⑱ 21-5-40 (高炉) ⑲ 18-8-40 (高炉) ⑳ 21-8-40 (高炉) ㉑ 24-8-40 (高炉) ㉒ 21-12-40 (高炉) ㉓ 40-8-25 (早強) ㉔ 21-8-25 (早強) ㉕ 24-8-25 (早強) ㉖ 18-8-25 (高炉) ㉗ 21-5-80 (高炉) ㉘ 18-3-40 (高炉) ㉙ 21-3-40 (高炉) ㉚ 各種	① 一般養生 ② 特殊養生 (練炭)	① 無 ② 有

J 7 ラフレレンスレン賃料補正係数	J 8 ラフレレンスレン賃料補正係数
① 標準 ② 標準以外	実数入力

(注)1. J3条件は中詰コンクリート設計量 (実数) を入力する。(10m当たり設計量)

2. J7条件で②を選択した場合、J8条件で補正係数を入力する。

3. 材料費については、施工単価入力基準(Y0800005等)により考慮されるため、(5)単価表で「別途計上」としてはいるが、別途計上する必要はない。

4. 生コンクリートの数量には、ロス率として+0.05を含んでいる。

5. 単価には下記の諸雑費率を含んでいる。※ ()内の率は特殊養生 (練炭) の場合。

J1①	J1②	J1③
J2①2%(5%)	J2①3%(6%)	J2①4%(8%)
J2②5%(12%)	J2②6%(14%)	J2②7%(16%)
J2③8%(19%)	J2③9%(22%)	J2③10%(24%)
J2④11%(25%)	J2④12%(28%)	J2④13%(30%)
J2⑤12%(27%)	J2⑤14%(31%)	J2⑤14%(32%)

6. J7条件で②標準以外を選択した場合、J8条件にてH29土木工事標準積算基準書 (電気通信編) VIII-3-72の深夜割増計算式にて算出した率を入力する。(少数点以下2位 (3位以下四捨五入))

■単価登録：材料費：護岸基礎ブロック (Y0800005)、生コンクリート (Y0210000、Z2010009ほか)、
生コンクリート夜間割増額 (Y0213000)

■諸雑費 (率+まるめ)

10 護岸基礎ブロック(2)(WN322130)

(1) 適用範囲 (新土木工事積算システム名称は、護岸基礎ブロック据付工を示す)

本歩掛は、護岸基礎ブロック工(1)の適用範囲を外れた護岸工のプレキャスト基礎ブロック(ブロック長2m、3.3m、4m、5m)の施工に適用する。

(2) 機種の選定

護岸基礎ブロック据付に使用する機械の機種・規格は、護岸基礎ブロック工(1)3による。

(3) 護岸基礎ブロック据付工

3) - 1 日当り施工量

護岸基礎ブロック据付作業における日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.1 ブロック据付の日当り施工量

ブロック製品長	単位	施工量
2,000mm	m	30 (32)
3,300mm	〃	38
4,000mm	〃	42
5,000mm	〃	48

(備考) 1. 上表にはブロックの連結、目地材の設置等を含み、中詰材の投入は含まない。

2. ブロック製品長2,000mmで、中詰材投入の必要がないブロックについては()内の数値を使用する。

3) - 2 編成人員

護岸基礎ブロック据付作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.2 日当り編成人員 (人)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	1

3) - 3 諸雑費

諸雑費は、目地材の材料費であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表3.3 諸雑费率 (%)

ブロック製品長(mm)	2,000	3,300	4,000	5,000
諸雑费率	2			3

(備考) 目地を使用しない場合は、諸雑費を計上しない。

(4) 単価表

表(4)-1 護岸基礎ブロック工(2)100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	N×100/D	表3.1、表3.2
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
護 岸 基 礎 ブ ロ ッ ク		個		別途計上
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日	N×100/D	表3.1
諸 雑 費		式	1	表3.3

備考 N:歩掛 D:日当り施工量

(5) 施工単価入力基準表

護岸基礎ブロック据付工

コード	WN322130	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 ブロック製品長	J 2 目地材の有無	J 3 中詰材の有無
	① 2000mm ② 3300mm ③ 4000mm ④ 5000mm	① 無 ② 有	① 無し ② 有り

J 4 ラフテレンクレーン賃料補正係数	J 5 ラフテレンクレーン賃料補正係数
① 標準 ② 標準以外	実数入力

(注) 1. J1条件で①を選択した場合、J2～J4条件まで選択する。

2. J1条件で②～④を選択した場合、J2及びJ4条件を選択する。

3. J4条件で②を選択した場合、J5条件で補正係数を入力する。

4. 材料費については、施工単価入力基準(Y0800005)により考慮されるため、(4)単価表で「別途計上」としているが、別途計上する必要はない。

5. 単価において目地を使用する場合は諸雑费率2%を含んでいる。

6. J4条件で②標準以外を選択した場合、J5条件にてH29土木工事標準積算基準書（電気通信編）Ⅷ-3-72の深夜割増計算式にて算出した率を入力する。（少数点以下2位（3位以下四捨五入））

■単価登録：材料費：護岸基礎ブロック（Y0800005） ■諸雑費（率＋まるめ）

⑧ 仮 設

1 仮排水路用シート (WN910480)

仮排水路工において保護シートが必要な場合の標準使用数量は、次表を標準とする。

ただし、現場条件により次表により難い場合は別途積算するものとする。

なお、敷設・撤去に係わる施工歩掛については、農林水産省 土地改良工事積算基準 仮設工「土工用マット敷設」(P～554)を適用するものとし、下記3の仮排水路用シート及び盛土被覆シート施工歩掛による。

仮排水路用シート10000m²当り使用材料

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ポリシート	厚さ0.17mm 3.6m×50m	m ²	10400	重ね合わせ分を含む
亜鉛アルミめっき鋼線	径6mm	t	0.264	

備考：シート損料は全損扱いとする。

2 盛土被覆シート (WN910490)

農地の表土など仮置きした土砂等をシートでの被覆が必要な場合の標準使用数量は、次表を標準とする。

ただし、現場条件により次表により難い場合は別途積算するものとする。

なお、敷設・撤去に係わる施工歩掛については、農林水産省 土地改良工事積算基準 仮設工「土工用マット敷設」(P～554)を適用するものとし、下記3の仮排水路用シート及び盛土被覆シート施工歩掛による。

盛土被覆シート100m²当り使用材料

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ブルーシート	幅3.6m 長5.4m	枚	5.35	重ね合わせ分を含む
ロープ	φ10mm モノフィラメント系	kg	1.288	参考重量10.3kg/200m
土のう	62×48cm	袋	29	

備考：1、シート損料は30%とする。

2、ロープ損料は20%とする。

3、施工歩掛には、土のう製作、設置、撤去を含むものとする。

4、材料の重ね代は4%とする。

3. 仮排水路用シート及び盛土被覆シート施工歩掛

2-1 編成人員

シートの敷設・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 2. 1 シート敷設・撤去歩掛 (N1) (100 m²当り)

施工区分	普通作業員	単 位	備 考
敷 設	0.16	人	材料の重ね代は4%とする。
撤 去	0.32	人	

備考 1. シートの敷設、撤去に伴う移動手間を含む。

2. 床拵は、含まない。

4. 施工単価入力基準表

土工用マット（シート類）敷設・撤去

コード	WP018062	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1 施工区分		J 2 土木安定用材
	① 敷設・撤去 ② 敷設 ③ 撤去		① 仮排水路用シート ② 盛土被覆シート ③ 土木安定シート(一般土木用 95kg/3cm) ④ 土木安定シート(一般土木用 130kg/3cm) ⑤ 土木安定シート(一般土木用 180kg/3cm) ⑥ 土木安定シート(一般土木用 290kg/3cm) ⑦ 土木安定シート(一般土木用 450kg/3cm) ⑧ 土木安定シート(フェルト系 厚10mm 9.8kN/m (1tf/m)) ⑨ 土木安定シート(メッシュ状 100kg/5cm) ⑩ 土木安定シート(メッシュ状 185kg/5cm) ⑪ 土木安定シート(メッシュ状 240kg/5cm) ⑫ 遮水シート 複合体(シート1mm絞 マット10mm) ⑬ 下敷マット(t=10mm 117N/5cm) ⑭ 下敷マット(t=20mm 235N/5cm)

(注)1. J1条件で①, ②を選択した場合、J2条件選択可能。

2. J2条件で①, ②を選択した場合、下記の「WN910480」と「WN910490」が計上される。

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

仮排水路用シート

コード	WN910480	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	なし		

(注)1. シートの数量には重ね代4%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

盛土被覆シート

コード	WN910490	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	なし		

(注)1. シートの数量には重ね代4%を含んでいる。

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

3 立木切倒し・枝払い切揃え・立木集積、立木積込み、立木・伐開物・伐根物運搬 (WA169901、WA169902、WA169903)

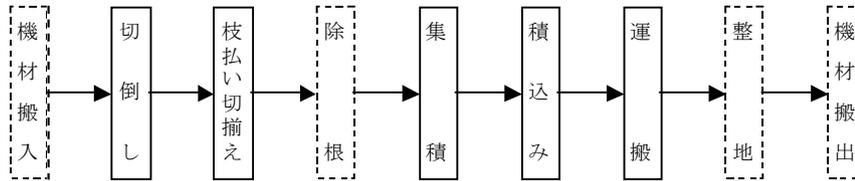
(1) 適用範囲

伐開工の内、立木の切倒し、枝払いの切揃え・立木集積、立木積込み及び立木・伐開物・伐根物等の運搬作業を共通仮設費の準備費で積上げる場合に適用する。

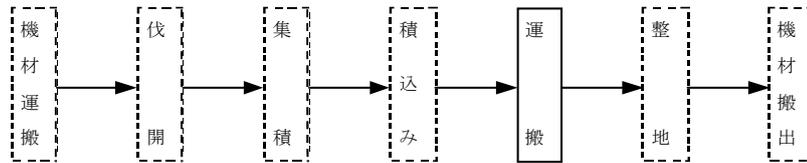
(2) 施工概要

施工フローは下記を標準とする。

(2)-1 立木施工フロー



(2)-2 伐開物・伐根物等施工フロー



備考 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(3) 施工歩掛

(3)-1 立木切倒し・枝払い切揃え、立木集積歩掛

立木切倒し・枝払い切揃え、立木集積の歩掛は、次表とする。

表3.1 立木切倒し・枝払い切揃え、立木集積 (N1) (100本当たり)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	1.2
特殊作業員		人	1.8
バックホウ運転 [掴み装置付]	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2011年規制) 山積 0.5m ³ (平積 0.4m ³)	h	14.1
諸雑費率		%	7

備考1. 諸雑費はチェーンソーの運転経費及び切創防止用保護衣の費用等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 本歩掛は、立木の再利用等の有無にかかわらず適用出来る。
3. 施工単位「本」とは、立木の本数である。

(3)-2 立木積込みの歩掛

立木積込みの歩掛は、次表とする。

表3.2 立木積込み (N2) (10t当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.45
バックホウ運転 [掴み装置付]	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2011年規制) 山積 0.5m ³ (平積 0.4m ³)	h	1.53

(3)-3 運搬歩掛

運搬の歩掛は、次表とする。

表3.3 ダンプトラック運搬歩掛 (N3) (10t当り)

運搬機種・規格	ダンプトラック オンロード・ディーゼル10t積				
運搬距離(km)	9.5以下	20.0以下	31.5以下	44.0以下	50.0以下
運搬歩掛(h)	4.5	6.5	8.7	11.1	12.2

備考 1. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

2. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。
3. 運搬距離が50kmを超える場合は、別途計上とする。

(4) 単価表

(4) - 1 単-1 立木切倒し・枝払い切揃え、立木集積 100本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	N1	表3.1
特殊作業員		〃	〃	〃
バックホウ運転 [掴み装置付]	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2011年規制) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	h	N1	〃
諸雑费率		式	1	〃
計				

備考 N1: 歩掛

(4) - 2 単-2 立木積込み10t当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	N2	表3.2
バックホウ運転 [掴み装置付]	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2011年規制) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	h	〃	〃
計				

備考 N2: 歩掛

(4) - 3 単-3 ダンプトラック運転 10t当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック運転	オンロード・ディーゼル10t積	h	N3	表3.3
計				

備考 N3: 歩掛

(4) - 4 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ [掴み装置付]	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2011年規制) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	機-3	機械損料1→バックホウ(標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2011年規制)山積0.5m ³ (平積0.4m ³)) 機械損料2→掴み装置(開口幅1,700~mm 爪幅 400~750mm) *運転労務、燃料消費量算定に当たっては バックホウを使用
ダンプトラック	オンロード・ディーゼル10t積	機-7	

(5) 施工単価入力基準表

立木切倒し・枝払い切揃え・立木集積

コード	WA169901	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各種	なし		

(注)1. 単価には諸雑费率7%を含んでいる。

■単価登録: なし ■諸雑費(率+まるめ)

立木積込み

コード	WA169902	施工単位	t
施工区分	入力条件		
各種	なし		

■単価登録: なし ■諸雑費(まるめ)

立木ダンプトラック運搬

コード	WA169903	施工単位	t
施工区分	入力条件		
各種	J 1 立木ダンプトラック運搬距離(km)		J 2 タイヤ損耗費
	① 9.5以下 ② 20.0以下 ③ 31.5以下 ④ 44.0以下 ⑤ 50.0以下		① 良好 ② 普通 ③ 不良

■単価登録：なし ■諸雑費（まるめ）

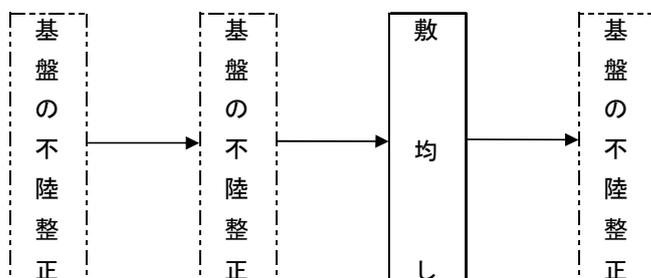
4 仮設砂利敷道路（新設道路）（WP018152）

(1) 適用範囲

本歩掛は、工専用仮設砂利敷道路の砕石等の敷均し作業に適用する。

(2) 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. 路床の掘削作業は含まない。

(3) 施工機種

機種は次表を標準とする。

表(3). 1 施工機種

機種	規格
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）

(4) 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表(4). 1 施工機種

機種	作業内容		世話役 (人)	普通作業員 (人)	敷均し機械運転時間 (hr)
バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.20	0.62	2.5

(5) 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

$$100\text{m}^2 \text{ 当り敷砂利の使用量 (m}^3\text{)} = 100 \times \text{敷砂利仕上がり厚さ (m)} \cdots \cdots \text{式(5). 1}$$

(6) 単価表

(6) - 1 仮設砂利敷道路（新設道路） 100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表(4). 1
普通作業員		人		〃
舗装材				式(5). 1
バックホウ運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	h		表(3). 1
計				

(6) - 2 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	機-1	

仮設砂利敷道路 (新設道路)

コード	WP018152	施工単位	m ²
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	敷砂利仕上がり厚さ (m) 実数入力		

■単価登録 材料費：敷砂利 (Y0800003) ■諸雑費 (まるめ)

5 仮設資材 (コンクリート管) (WN910810)

仮設資材 (コンクリート管)

コード	WN910810	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	現場当り損耗率 ① 50%		

■単価登録 材料費 (Y0800004) ※鉄筋コンクリート管 ■諸雑費 (まるめ)